

令和元年度

第五次青梅市生涯学習推進計画

進捗状況報告書

(平成30年度分事業)

青梅市生涯学習推進本部

はじめに

青梅市では、生涯学習施策を計画的に推進するため、平成26年度を初年度とする「第五次青梅市生涯学習推進計画」を策定し、様々な施策に取り組んでいます。

この報告書は、「第五次青梅市生涯学習推進計画」の進捗状況について年次報告として作成したものです。

生涯学習の理念である、市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現に向けて、計画の総合的かつ横断的な推進を図ります。

令和元年11月

目 次

第 1 章

I 計画の概要	7
II 施策の展開	10
III 青梅市事業計画一覧	15

第 2 章

計画の進捗状況調査報告書	21
1 生涯学習の基礎づくり	23
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	23
(2) 小・中学校教育の充実	24
(3) 家庭・学校・地域の連携	26
2 生涯学習の場と機会の拡充	29
(1) 施設の整備と有効活用	29
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	29
(3) 共に生きるための学習機会の充実	34
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	36
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	39
3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から	42
(1) 地域コミュニティ活動の支援	42
(2) 地域人材の育成と活用	43
4 学習情報提供と学習相談の充実	46
(1) 学習情報提供の充実	46
(2) 学習相談の充実	47
5 生涯学習推進体制の確立	47

第 1 章

I 計画の概要

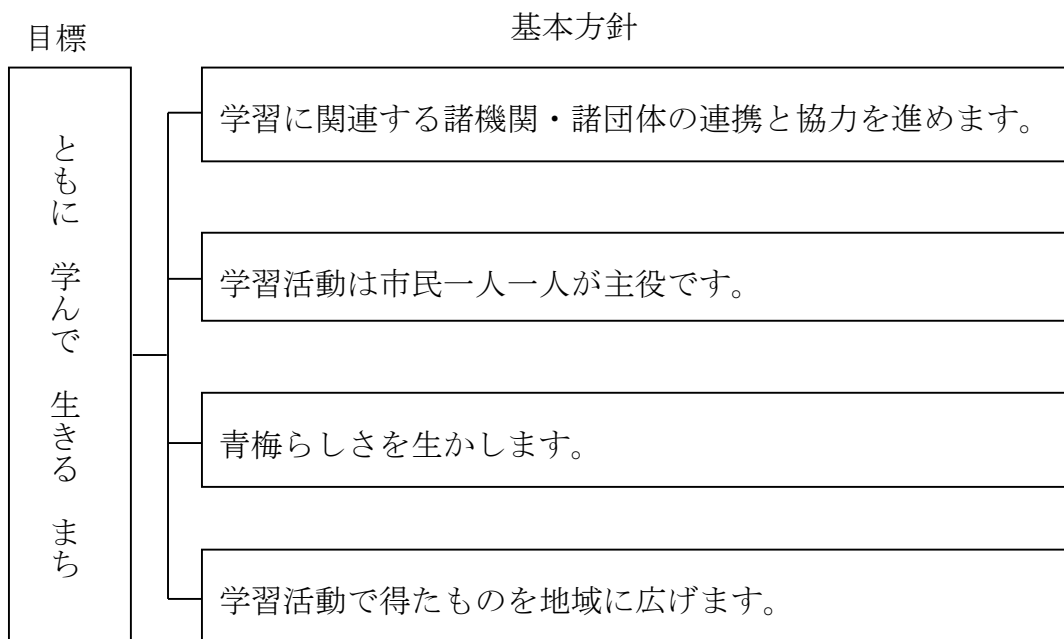
II 施策の展開

III 青梅市事業計画一覧

I 計画の概要

第五次青梅市生涯学習推進計画

1 生涯学習推進の目標と基本方針



市民が生涯を通じ、学習の機会を選択して、様々な知識や技術が習得し、人格を磨き、「ともに学んで生きるまち」を実現できるように生涯学習の推進を図ります。

2 計画策定の趣旨

青梅市では、市民一人一人が生涯を通じて地域社会の中でともに学び・ともに教え合いながら、生きがいのある充実した生活を送ることができるような「生涯学習社会」を築くために、生涯学習推進計画を策定します。「ともに学んで生きるまち」を目指して、市民と行政のパートナーシップをもとにした生涯学習のまちをつくるために、市が実施している生涯学習関連の諸事業を体系化するとともに、市内生涯学習関係機関団体との協働により、諸施策の効果的な展開を図っていきます。

3 計画の期間

平成26年度から平成30年度までの5年間とします。

この推進計画は青梅市総合長期計画を上位計画（平成25年度から平成

34年度)とし、他の部門別計画とも整合性を図っていきます。

4 計画の指針

青梅市における生涯学習に関する施策の総合的・効果的な推進を図り、生涯学習に関する既存施策を総合的な観点から体系化するとともに、将来において展開する必要がある施策の考え方を示します。

5 計画の範囲

- (1) 生涯学習社会の形成に向けての市の役割を明記するものですが、計画の推進にあたっては、生涯学習に関連する各種団体・機関等の協力を得て推進します。
- (2) 対象となるのは、教育、文化、スポーツのほか、趣味やレクリエーション、福祉、保健衛生、防災、まちづくり等、市や各種団体・機関等で行う幅広い分野の学習事業とします。

6 生涯学習の背景

- (1) 知識学習としての生涯学習
社会の変化は次々と新しい知識や技術を出現させ、それぞれのライフスタイルやビジネスを充実させるために、それらの学習が必要とされています。学校の学習だけでなく社会人になってからも、学習し続ける必要があります。
- (2) 職業教育としての生涯学習
市場の国際化に伴い、技術革新や労働の質の向上のため、職業技能や能力開発に関する研修や訓練が重視されてきました。(企業内研修からリフレッシュ教育、リカレント教育への取組へ。大学等高等教育機関に対して学習機会提供の期待が高まっています。)
- (3) 生きがい追求としての生涯学習
時間的・経済的余裕が仕事以外で自己実現を可能としました。仕事を離れた高齢者や子育てを終えた女性が趣味・教養等の「自分探しの学習活動」を通じて、生きがい・充実感を追求する気運が高まっています。
- (4) 心のうるおいとしての生涯学習
急激な社会変化がもたらす人間疎外や人間性の喪失に対処するため、心のうるおい・人との交流・ふれあいを求めて、仲間探しの学習活動が増えています。
- (5) まちづくり（地域形成）としての生涯学習
学習する向上心が地域の活性化をもたらし、学習活動を通してこそよい

人間関係が生まれ、豊かで住みよい地域が実現されます。学習した人々が地域の担い手として地域づくりに参加し、学習の成果をまちづくりに生かしていくことが期待されています。

— スローガン —

「ともに学んでいきるまち」をめざして

O 応援します お互いに

M 学んで 教えて

E エンjoyします

みんなで 楽しむ 生涯学習

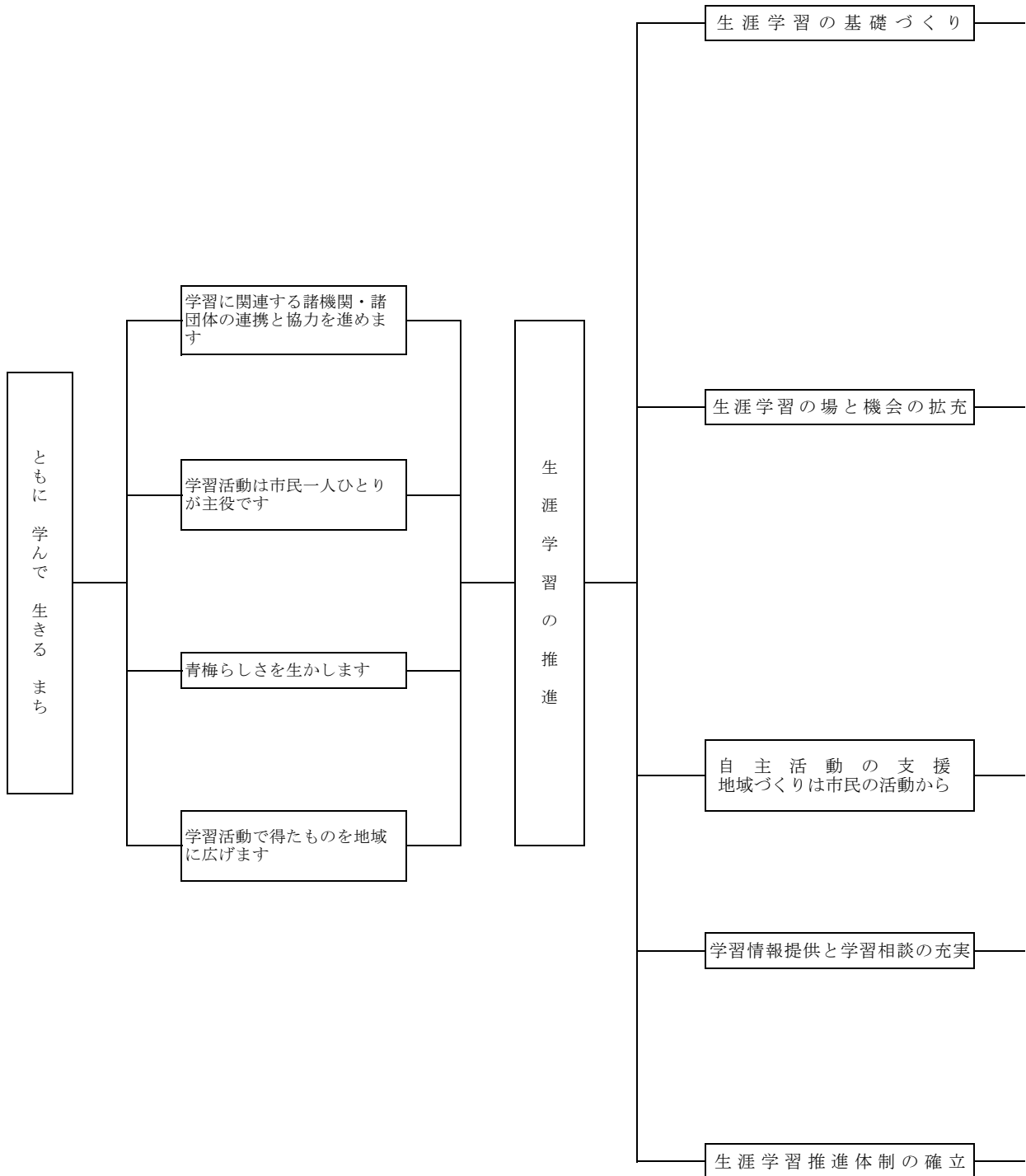
II 施策の展開

1 計画の体系

(目標)

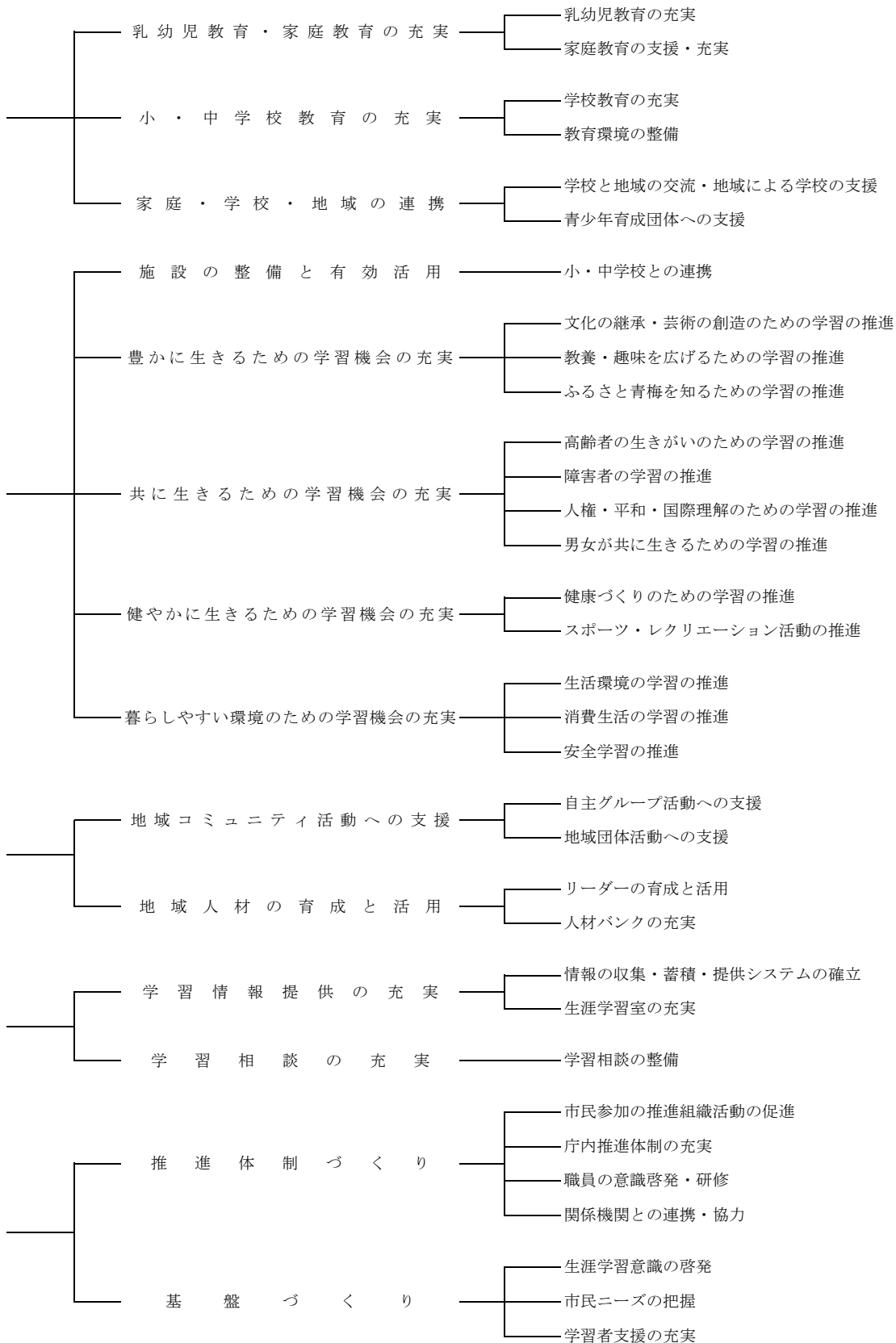
(基本方針)

(基本的施策)



(主な施策の方向)

(具体化の方策)



2 基本的施策

5つの基本的施策を設定し、総合的に施策を推進します。

- 1 生涯学習の基礎づくり
- 2 生涯学習の場と機会の拡充
- 3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から
- 4 学習情報提供と学習相談の充実
- 5 生涯学習推進体制の確立

1 生涯学習の基礎づくり

基本的な考え方

生涯にわたり自らが考え、創造性豊かな充実した人生を送るためには、人間形成の基礎をつくる子どもの時期に基本的な学力や自らを成長させようという意欲、生きる力などを身につけることが大事です。

個性豊かな子どもの健全な成長を願い、子どもを取り巻く家庭・学校・地域が連携して子育て・教育の充実を図り、地域社会全体で行われるような環境を目指します。

子どもを取り巻く学習環境を見ると、少子化・核家族化の進展と同時に、家庭教育力・地域教育力の低下や親の意識改革が叫ばれています。また、いじめ、登校拒否等、様々な問題が子どもたちに重圧をかけてきています。このようなことから、各保育園で行っている子育て支援事業との連携や、小・中学校との連携を含め子育て相談、家庭教育の機会の提供など、家庭教育への支援や地域での青少年関係団体活動への支援などを通して「生涯学習の基礎づくり」に努めます。

主な施策の方向

- (1) 乳幼児教育・家庭教育の充実
- (2) 小・中学校教育の充実
- (3) 家庭・学校・地域の連携

2 生涯学習の場と機会の拡充

基本的な考え方

市民が自主的に生涯にわたって学習し、健康で豊かな生活を送ることができるよう、市民一人一人がその能力や個性を伸ばし、自分の求めるものを自分に合った方法で「いつでも・どこでも・だれでも」が学べるよう、学習の場と機会の拡充に努めます。

また、あらゆる市民が身近な施設で活動できるよう、利用しやすさやバリアフリーの視点等から市民センター等の改修整備に努めます。また、インターネット等の活用による各種イベント情報の提供など、市民の利便性の向上を図ります。

主な施策の方向

- (1) 施設の整備と有効活用
- (2) 豊かに生きるための学習機会の充実
- (3) 共に生きるための学習機会の充実
- (4) 健やかに生きるための学習機会の充実
- (5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実

3 自主活動の支援

基本的な考え方

地域づくり・まちづくりは市民の着実な活動から始まります。団体・サークル等の自主活動を通じて、仲間とのふれあいが生まれ、人と人との関係が豊かになってきます。このような自主活動の中で、お互いに学び合い、教え合うような人間関係が形成されます。こうした自主的な地域団体・自主グループの活動が活発になるよう応援するため、その自主性を基本として、活動の場の提供や講師・指導者の紹介などを支援していきます。

市民同士が教え合い、学び合う環境を整備し、生涯学習を地域から市民の手で推進していくような方策について検討していきます。

主な施策の方向

- (1) 地域コミュニティ活動への支援
- (2) 地域人材の育成と活用

4 学習情報提供と学習相談の充実

基本的な考え方

市民一人ひとりの学びの意思・意欲を大切にするとともに、学習活動が活発になるためには、生涯学習情報が「いつでも・どこでも・だれでも」が入手できることが求められています。

このことから、広報等の印刷物による学習や機会の場・方法などに関する情報をはじめ、インターネットによる情報提供を実施し、市の生涯学習事業に関する情報を発信することで、市民の生涯学習を支援します。

主な施策の方向

- (1) 学習情報提供の充実
- (2) 学習相談の充実

5 生涯学習推進体制の確立

基本的な考え方

生涯学習関連事業は、教育委員会部門だけでなく、行政部門でも各課で様々な事業が活発に行われるようになってきています。市民の自主的な学習活動を効果的に支援していくために、現在各課で個々に企画実施されている生涯学習事業を、それぞれの事業の目的を大切にしながらも、市民の生涯学習の推進という視点からとらえなおして、関係部課の横の連携協力関係を築いていくことが大切です。

各課の横の連携、情報交換を図ることで、同様の事業が他の部課と重複して実施されることを避け、バランスよく効率的に事業を実施していくことが必要です。そのために、市民の生涯学習を支援するという観点からの各課の事業担当職員の共通理解が必要です。

また、学習の主体である市民の意見を推進施策に反映させていくことが大切であり、市と市民が協力しながら推進施策を進めていくため、市と市民の情報交換や意見交換の場が必要です。そうした場を、協議機関・連携協力機関として生涯学習推進体制の中に充実させていきます。

主な施策の方向

- (1) 推進体制の充実
- (2) 基盤づくり

Ⅲ 青梅市事業計画一覧

No.	事業名	所管課等	頁
1 生涯学習の基礎づくり			23
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実			
1	母親（両親）学級	健康課	24
2	乳幼児健康相談	健康課	
3	両親学級	健康課	
4	子育てひろば事業	子ども家庭支援課	
5	子育て支援事業	子ども家庭支援課	
6	親子のスキンシップを図る教室	社会教育課	
7	家庭教育学級	社会教育課	
8	おはなし会	社会教育課（図書館）	
9	子ども読書活動推進事業講演会	社会教育課（図書館）	
10	ブックスタート事業	社会教育課（図書館）	
11	協働木育講座「はじめてのおもちゃづくり」	農林課	
(2) 小・中学校教育の充実			
12	教員研修	指導室	24
13	教育研究支援	指導室	
14	教科指導等の充実	指導室	25
15	進路指導の充実	指導室	
16	生徒指導の充実	指導室	
17	相談機関の充実	学務課	
18	適応教室の充実	指導室	
19	情報教育の推進	指導室	
20	芸術・技術教育の支援	指導室	
21	スポーツ教育の振興	指導室	
22	特別支援学級の運営	学務課	
26			
(3) 家庭・学校・地域の連携			
23・24	P T Aの活動への支援	市民センター・社会教育課	26
25	協働事業の支援	市民活動推進課	
26・27	青少年対策地区委員会事業への支援	市民センター・子ども家庭支援課	27
28・29	青少年委員活動	市民センター・社会教育課	
30	青少年問題協議会	子ども家庭支援課	
31	子ども会・保護者会等の学習活動への支援	社会教育課	
32	放課後子ども教室	社会教育課	
33	職場体験事業	中央図書館	28
34・35	地域人材の活用	指導室・社会教育課	
2 生涯学習の場と機会の拡充			29
(1) 施設の整備と有効活用			
36	学校体育施設開放	スポーツ推進課	29
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実			
37	公共施設見学会	秘書広報課	29
38	福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢介護課	
39	地域保健福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢介護課	
40	敬老会	高齢介護課	
41	観梅市民まつり	商工観光課	
42	後援等協力事業	商工観光課	
43	昭和レトロ商品博物館	商工観光課	
44	青梅赤塚不二夫会館	商工観光課	
45	シイタケ栽培講習会	農林課	
46	青梅市農業祭	農林課	
30			

No.	事業名	所管課等	頁
47	16ミリ発声映写機・ビデオプロジェクター操作講習会	社会教育課	30
48	成人式	社会教育課	
49	掌理団体定期演奏会等	社会教育課	
50	市民大学	社会教育課	
51	農業食育体験教室・ふれあいまつり販売体験	社会教育課	
52	豊かに生きるための教室・講座等の実施	社会教育課	31
53・54	生涯学習フェスティバル（釜の淵新緑祭）	社会教育課・文化課	
55	展示（郷土博物館）	文化課	
56	郷土博物館講座	文化課	
57	文化財の調査保護	文化課	
58	文化財の紹介・普及	文化課	32
59	実技講座（美術館）	文化課	
60	常設展（美術館）	文化課	
61	特別展・企画展（美術館）	文化課	
62	ビエンナーレOME	文化課	
63	美術講演会	文化課	33
64	市民映画会	文化課	
65	市民劇場	文化課	
66	中央図書館講座等	社会教育課（図書館）	
67	工作及び手芸教室	社会教育課（図書館）	
68	上映会	社会教育課（図書館）	
69	明るい選挙推進講演会	選挙管理委員会	
70	親子農業体験会	農林課	
71	本物にふれる会	吹上中学校	
72	ますつりにチャレンジ	青梅市青少年委員協議会	
73	集まれおうめっ子	青梅市青少年委員協議会	
(3) 共に生きるための学習機会の充実			
74	平和の写真展の開催	市民安全課	34
75	国際交流活動支援	秘書広報課	
76	通訳ボランティア	秘書広報課	
77	男女平等講座の開催	市民活動推進課	
78	女性の就業支援	市民活動推進課	
79	老壮大学	市民センター	35
80	社会を明るくする運動	福祉総務課	
81	家庭介護DVDの貸出し	高齢介護課	
82	認知症サポーター養成講座	高齢介護課	
83	高齢者クラブ健康づくりモデル事業	高齢介護課	
84	家族介護教室	高齢介護課	36
85	手話講習会事業	障がい者福祉課	
86	点字図書給付事業	障がい者福祉課	
87	身体障がい者自動車運転教習事業	障がい者福祉課	
88	相談支援事業	障がい者福祉課	
89	意思疎通支援事業	障がい者福祉課	
90	青梅市障がい者サポートセンター事業	障がい者福祉課	
91	中等度難聴児発達支援事業	障がい者福祉課	
92	国際理解講座	社会教育課	
93	ともに生きるための教室・講座の企画運営	社会教育課	
94	生涯学習まちづくり出前講座	社会教育課	

No.	事業名	所管課等	頁
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実			
95	各種体操教室	スポーツ推進課	36
96	青梅マラソン大会	スポーツ推進課	
97	有酸素運動普及事業	スポーツ推進課	37
98	スポーツ・レクリエーションフェスティバル	スポーツ推進課	
99	市民体育大会	スポーツ推進課	
100	奥多摩溪谷駅伝競走大会	スポーツ推進課	
101	屋内温水プール開放事業	スポーツ推進課	
102	介護予防講演会	高齢介護課	
103	自主グループ育成支援	高齢介護課	
104・105	機能訓練	高齢介護課・健康課	38
106	おうめ健康まつり	健康課	
107	健康教育	健康課	
108	健康相談	健康課	
109	おうめ健康塾	総合病院管理課	
110・111 112・113	健やかに生きるための教室・講座の企画運営	スポーツ推進課・高齢介護課 健康課・社会教育課	
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実			
114	広聴活動	市民安全課	39
115	交通公園日曜映画教室	市民安全課	
116	交通公園交通安全教室	市民安全課	
117	交通安全講習会	市民安全課	
118	セーフティ教室（交通事故再現方式）	市民安全課	
119	専門相談事業	市民安全課	
120	パネル展等	市民安全課	
121	消費者相談	市民安全課	40
122	消費者研修会・セミナー	市民安全課	
123	市民のくらし展	市民安全課	
124	親水事業の拡充	環境政策課	
125	市民環境講座	公園緑地課	
126	環境月間	環境政策課	
127	ごみ処理施設見学会	清掃リサイクル課	
128	市内一斉美化デー	清掃リサイクル課	41
129	小学生ごみ減量化・資源リサイクル推進ポスターコンクール	清掃リサイクル課	
130	ごみ減量講座	清掃リサイクル課	
131	野鳥講座	農林課	
132	協働木育講座「林業化仕事見学ツアー」	農林課	
133	暮らしやすい環境のための教室・講座の企画	社会教育課	
3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から			42
(1) 地域コミュニティ活動への支援			
134	総合防災訓練	防災課	42
135	防災ハンドブックの作成・配布	防災課	
136	市民活動災害補償制度	市民活動推進課	
137	自主学习グループ支援	市民センター	
138	支会、体育振興会、自主防災地区委員会、高齢者クラブ等各地域団体の支援	市民センター	43
139	青梅型地域スポーツクラブ	スポーツ推進課	
140	地区市民運動会等支援	スポーツ推進課	
141	環境美化大会	清掃リサイクル課	
142	資源回収の奨励	清掃リサイクル課	
143	社会教育関係団体補助	社会教育課	
144	総合文化祭	社会教育課	
145	落ち葉掃き等ふれあい活動	吹上中学校	

No.	事業名	所管課等	頁
(2) 地域人材の育成と活用			
146	合同企業説明会in青梅	商工観光課	43
147	防災リーダーの育成	防災課	
148	子ども会ジュニアリーダー講習会	市民センター	44
149	子ども会育成指導者講習会	市民センター	
150	地域の特性を生かした事業	市民センター	
151	スポーツ推進委員研修	スポーツ推進課	
152	シルバーマイスター制度	高齢介護課	45
153	吹上しょうぶ公園・梅の公園ボランティアガイド	商工観光課	
154	青梅市森林ボランティア育成講座	農林課	
155	緑地管理ボランティア	公園緑地課	
156	青少年リーダー育成研修会事業	社会教育課	
157	講師・指導者およびボランティア協力者・協力団体人材登録制度	社会教育課	
158	芸術文化奨励賞	社会教育課	
159	おはなし学習会	社会教育課 (図書館)	
160	絵本のべんきょう会	社会教育課 (図書館)	
4 学習情報提供と学習相談の充実			46
(1) 学習情報提供の充実			
161	広報おうめの発行	秘書広報課	46
162	男女平等情報紙	市民活動推進課	
163	インターネットホームページの充実	情報システム課	
164	青梅税務署管内小学生による『税を考える週間』書道展	市民税課	
165	土砂災害対策の充実	防災課	
166	市民センターだよりの発行	市民センター	
167	観光CD-R等の貸出し、観光テレフォンサービス	商工観光課	
168	生涯学習だよりの発行	社会教育課	
169	市民企画講座の募集	社会教育課	
170	社会教育事業の学校への周知	社会教育課	
171	図書館報の発行	社会教育課 (図書館)	47
172	ブックリストの配布	社会教育課 (図書館)	
173	分館図書館だよりの発行	社会教育課 (図書館)	
(2) 学習相談の充実			
174	学習相談	社会教育課	47
5 生涯学習推進体制の確立			47
推進体制づくり			
175	職員対象啓発事業	職員課	47
176	生涯学習推進本部	社会教育課	
177	生涯学習推進市民会議	社会教育課	

第2章

計画の進捗状況調査報告書

計画の進捗状況調査報告書

調査内容 事業内容と進捗状況

1 平成30年度取組状況

2 担当課評価

評価記号	評 価	評 価 基 準
◎	順調である	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的で優れた取組を行った ・ 大きな成果を上げた ・ 課題や問題点は一つもない
○	おおむね順調である	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な取組を行った ・ 一定の成果を上げた ・ 大きな課題や問題点はない
△	一部困難な課題がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組を行った ・ 多少の成果を上げた ・ 課題や問題点がある
×	困難な課題がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組を行わなかった ・ 取組を行ったが成果は上がらなかった ・ 大きな課題が残った
—	事業終了 隔年実施	

事業計画	事業数	◎	○	△	×	－
1 生涯学習の基礎づくり	35	0	33	0	0	2
(1)乳幼児教育・家庭教育の充実	11	0	9	0	0	2
(2)小・中学校教育の充実	11	0	11	0	0	0
(3)家庭・学校・地域の連携	13	0	13	0	0	0
2 生涯学習の場と機会の拡充	98	5	84	2	1	6
(1)施設の整備と有効活用	1	0	1	0	0	0
(2)豊かに生きるための学習機 会の充実	37	2	32	0	0	3
(3)共に生きるための学習機 会の充実	21	0	19	2	0	0
(4)健やかに生きるための学習 機会の充実	19	1	17	0	0	1
(5)暮らしやすい環境のための 学習機会の充実	20	2	15	0	1	2
3 自主活動の支援	27	1	23	1	1	1
(1)地域コミュニティ活動への 支援	12	1	9	1	0	1
(2)地域人材の育成と活用	15	0	14	0	1	0
4 学習情報提供と学習相談の充実	14	0	13	1	0	0
(1)学習情報提供の充実	13	0	12	1	0	0
(2)学習相談の整備	1	0	1	0	0	0
5 生涯学習推進体制の確立	3	0	3	0	0	0
(1)推進体制づくり	3	0	3	0	0	0
合 計	177	6	156	4	2	9
割 合 (%)	100	3.4	88.1	2.3	1.1	5.1

基本的施策

1生涯学習の基礎づくり

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	健康課	1 母親(両親)学級	初産の妊婦を対象に安心して出産ができるよう親となる心構えを伝え、妊娠中の不安を解消します。	健康センターにおいて、母親(両親)学級を実施した。 ・4日間コース 年2回実施 延べ参加人数 83人 ・5日間コース 年6回実施 延べ参加人数 356人 夫参加延べ数 119人	○	受講者の都合に合わせて4日間と5日間コースの教室が選択出来るようにした。また、両コースの最終日は、夫婦で参加しやすいように土曜日に実施することにより、夫の参加者数が増加した。
	健康課	2 乳幼児健康相談	健康・栄養・歯科および育児に不安がある乳幼児に対し、小児科医師等が専門的な立場から適切な指導助言を行い、保護者の育児を支援します。	健康センターにおいて、以下の相談事業を実施したほか、電話での各種相談にも対応した。 ・医師による乳幼児健康相談 年24回実施 延べ件数340件 ・健康センター専門職による乳幼児健康相談 年12回実施 延べ件数231件 ・心理相談員による子ども発達相談 年54回実施 延べ件数334件	○	気軽に相談が出来る場として、健診や新生児訪問時に御案内し健診後のフォローや成長発達の確認している。相談内容は、計測のみの利用から、育児・栄養・歯科に関する相談を行うことにより育児における不安解消の一助になっている。また、心理相談員が1歳6か月児健診等の健診結果や言葉の遅れや行動等に関する相談にすることで、保護者の不安解消の一助になり、今後のサポートにつなげることが出来た。
	健康課	3 両親学級	妊娠16週から27週までの妊婦と夫を対象に、赤ちゃんの育て方、あやし方、お風呂の入れ方等について指導し、父親の子育て参加を促します。	平成27年度より、母親学級と事業統合した。	-	
	子ども家庭支援課	4 子育てひろば事業	保育所の機能・スペースを活用して、ふれあいの場を提供し、日常的で身近な問題について、保護者・子どもから相談を受け、話し相手になります。また、啓発事業を実施します。	・子育て支援センター、永山ふれあいセンターの「キッズパーク」、東青梅市民センター内「おひさま広場」、河辺市民センター内「ウメスタ」、下長瀬自治会館「とことこ」の他、13保育所で実施した。 ・地域に身近な保育園を開放し、誰でも参加できるふれあいの場を提供した。 ・育児講座を開催。 ・親子参加行事を開催。 ・相談業務を行った。	○	育児講座などの実施、子育て中の保護者へ積極的に情報の提供を行うとともに、相談業務で子育ての悩み等の相談を受け、悩みの解決に向け一定の効果を上げることができたと考えています。
	子ども家庭支援課	5 子育て支援事業	青梅市子育て支援センターなど、子育てと子どもの健やかな成長を支援する場を提供するとともに、講座等を行います。	・市内の市民センター、子育て支援センターで事業を実施した。 ・手遊び型の事業では和室や会議室などで、絵本や積み木などを使った遊びを行った。 ・体育型では体育館でボールや縄跳びなどを使った遊びを行った。 実施回数 418回 延べ参加人数 6,421人 ・前年度まで社会教育課の生涯学習事業であった「親子スキップ教室」と「あつまれ!0・1・2・3ちびっこ☆ランド」を、子育て支援事業として再編し、同年齢の乳幼児とその保護者へ子育て支援講座と体験型イベントを実施した。 延参加人数 2,018人	○	市民センターや子育て支援センターで行うことにより、市民が気軽に利用できる子育ての場を提供することができたため。また、会場に講師を配置し、はじめての利用者にも利用しやすい雰囲気を作ることができたため。「親子スキップ教室」等では、保護者に対し、乳幼児の知性・感性を育て、人格形成を図る技術の会得の機会を提供することができたため。
	子ども家庭支援課	6 親子のスキップを図る教室	「親子スキップ教室」、「ちびっこひろば」等、親と子のスキップを図る教室を開催します。	本年度から、子育て支援事業へ再編した。	-	社会教育課より移管され、子育て支援事業へ再編・統合したため実施せず。
	社会教育課	7 家庭教育学級	主に乳幼児から中学生を持つ親を対象に、家庭教育に関する様々なテーマで開催します。	家庭教育講演会 ・第1回 聞こえていますか?子どもの心の声 実施日 7月22日 参加人数 36人 ・第2回 おやこで図書館フル活用～お気に入りの場所みつつけ!～ 実施日 10月14日 参加人数 24人 ・第3回 お悩み解消!めざせ!ごきげん1年生! 実施日 11月17日 参加人数 20人	○	毎回テーマを変えて3回の講演会を行った。また、乳幼児の保護者も参加しやすいよう、託児保育のほか、会場を幼稚園にしての開催、親子での参加可能な講演会などを実施した。
	社会教育課(図書館)	8 おはなし会	絵本の読み聞かせやおはなしの語りなどを行います。	・4月6日から3月24日まで延べ110回、中央図書館・市民センター・小学校などでおはなし会を実施した。延べ参加人数 2,683人 ・平成30年度においても、紙芝居のおはなし会を実施した。7月29日・12月24日の延べ6回 延べ参加人数 159人	○	1年を通じて事業を実施し、多くの参加者を得ることができた。今後も各事業の開催回数や内容の充実を図ることが課題である。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	社会教育課(図書館)	9 子ども読書活動推進事業講演会	子どもの読書活動を推進するための講演会などを実施します。	6月23日に、佐藤まどか氏による講演会「ものがたりが生まれる瞬間」を開催した。 参加人数 45人	○	講演会を開催することができ、45人の参加者を得ることができた。
	社会教育課(図書館)	10 ブックスタート事業	乳幼児健診時において、希望する保護者に対し、絵本の読み聞かせ等の相談とブックスタート・リーフレットの配布を実施します。	健康課との共催で、乳幼児に対する絵本の配布と、4月4日から3月20日までの延べ24回、乳幼児健診時において、絵本の紹介とブックスタート・リーフレット「あかちゃんといっしょに」の配布を行った。中央図書館で行う乳幼児向けおはなし会の案内も行った。延べ参加人数 1,366人	○	1年を通じて事業を実施し、1,366人の参加者を得ることができた。
	農林課	11 協働木育講座「はじめてのおもちゃづくり」	産まれてくるまたは生まれた我が子のために、はじめてのおもちゃ(ファーストイ)を木でつくる木育の推進事業を実施	実施日 10月4日 会場 風の子太陽の子広場 参加人数 8家族 19人	○	「木育」の実践的な活動を積極的に推進する目的に対して、アンケート結果から一定の成果を上げることができた。
(2) 小・中学校教育の充実	指導室	12 教員研修	教員の資質や能力の向上を図るため、職層や教職経験に応じた研修、専門的研修を実施します。	校長研修 2回 副校長研修 1回 教務主任会 5回 生活指導主任会 11回 若手教員育成研修1年次10回 若手教員育成研修1年次(宿泊研修)1回 若手教員育成研修2年次 3回 若手教員育成研修3年次 4回 市内視察研修 1回 中学校進路指導主任会 2回 新任主幹教諭研修 回 人権教育研修 5回 学校教育相談研修 2回 情報セキュリティ研修(未受講者対象研修) 3回 情報セキュリティ研修(管理職等対象研修) 3回 特別支援教育理解研修 1回 教育経営研修 1回 情報教育推進委員会 2回 水泳指導研修 1回 普通救命講習 1回 教育課題研修 2回 10年経験者研修 8回 特別支援教育コーディネーター研修 3回 小学校外国語活動研修 4回 食育リーダー連絡会 1回 柔道(武道)研修 1回	○	予定したとおりの回数を実施できた。 また、職層や教職経験に応じた研修等を実施することにより、教員の資質向上が図れた。
	指導室	13 教育研究支援	教育課題の解決、教科指導法の改善等の研究を支援し、より良い学校教育を目指す。 ・研究指定校、教育研究会、校内研修に対する支援	・研究指定校等への支援 小・中学校合わせて5校の研究を支援した。 ・教育研究会への支援 小学校4組・中学校3組が研究成果を発表した。 ・校内研修に対する支援 担当指導主事を中心に年間80回程度の指導訪問を実施した。	○	各校の研究を支援し、教員の資質向上が図れた。
	指導室	14 教科指導等の充実	1 東京都の学力状況調査において青梅市の平均点が東京都の平均を上回ることを目標に、指導等を充実します。 2 いじめの根絶に向け、人権教育・道徳教育を充実します。 3 外国人英語指導助手(AET)を活用し、小・中学校の英語教育、国際理解教育を推進します。 4 地域社会・地域環境の理解を深め、社会の一員としての自覚を育てます。 5 児童・生徒の学力向上を図るため、市民センター等を拠点として、地域の人材をコーディネーターや指導者として活用し、土曜日に補習教室を実施します。	・国語、算数、数学の基礎的な学力の定着を図るため、土曜日の補習事業「サタデークラス」を市内6か所の市民センターで年10回実施するとともに、放課後等の補習事業「ステップアップクラス」を26校で実施した。 ・中学3年生を対象に、東京都のモデル事業「スタディアシスト」を実施し、受験における学習支援、進路相談を市内中学校10校で各10回、4カ所の市民センターで各4回行った。 ・英語教育、外国語活動を目的にAETを全校に派遣した。(年間1,200日程度) 英語推進委員会を5回開催し、小・中ともに1回の研究授業を行った。推進委員会終了後にAET担当者会を3回開催し、AETの効果的な活用と指導についてを協議した。 ・副読本の活用と資料集の作成・活用 小学校3年生の年間指導計画に位置付け、副読本(改定版)を作成した。平成31年度からの使用を目指して、模擬授業も実施した。 ・学力向上推進委員会を4回、道徳教育推進委員会を4回実施し、教員の資質向上を図った。	○	国・都の補助金を受け、土曜日や放課後での教育課程外の教育環境を継続した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 小・中学校教育の充実	指導室	15 進路指導の充実	生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自分の意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育てます。	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導主任会を年2回実施し、各学校におけるキャリア教育の円滑な推進について協議・研修した。 中学生を対象に、3日間の職場体験活動を実施し、勤労観や職業観を育成した。 	○	進路指導およびキャリア教育を推進する中で、社会的自立・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力を育てることができた。
	指導室	16 生徒指導の充実	豊かな人間性と社会性を育成するために、児童・生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を高め、公共心をばぐみます。	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導主任会(小・中学校)を年間5回実施し、情報交換や連携を深めた。 中学校生活指導主任連絡協議会を年間6回実施し、関係機関との情報交換や連携について協議した。 	○	生活指導主任会や中学校生活指導主任連絡協議会での情報交換や他機関との連携を図りながら、豊かな人間性と社会性を育む取組を推進することができた。
	指導室から学務課へ移管	17 相談機関の充実	1 教育相談所 幼児・児童・生徒や保護者から、学校生活や家庭における問題、悩みについて相談に応じ、援助・助言を行います。 2 青少年相談室 青少年や保護者から、生活指導や性格、行動等の問題、悩みの相談に応じ、青少年等の非行防止と健全育成を図ります。 3 スクールソーシャルワーカーおよび心理相談員の派遣などにより、青梅市公立学校相談室と教育相談所等の連携を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談所 「青梅市いじめの防止に関する条例」にもとづき開催した「青梅市いじめ問題対策連絡協議会」および「青梅市教育委員会いじめ問題対策委員会」において、教育相談所の職員が委員として出席し、連携について協議した。 スクールソーシャルワーカー2人による家庭訪問などを行い、37件の事例に対応した。 相談所における来所相談件数は年間416件で電話相談は58件。面談回数は、保護者2,377回、子供1,090回で合計3,467回であった。 青少年相談 学校や都教育相談センター、保健所などの関係機関と連携しながら課題解決に努めた。 スクールカウンセラーとの連携 東京都が市内全小・中学校にスクールカウンセラーを配置しており、教育相談所のスクールソーシャルワーカー等を介し、連携を図った。 	○	学校長からの要請により、スクールソーシャルワーカーが、不登校傾向の児童・生徒の家庭訪問を実施し、登校支援や家庭の悩み事の相談に応じ、状況を学校に報告した。これを受けて、学校ではスクールカウンセラーを交えて情報交換を実施するなど、学校との連携体制の充実が図れた。
	指導室	18 適応教室の充実	1 ふれあい学級 不登校児童・生徒に対し、生活習慣の確立および学習等の援助を行い、在籍校への復帰を支援します。 2 外国人児童・生徒学級 外国人児童・生徒および帰国児童・生徒に対し、日本語の指導を行い、安心して学校生活を送れるよう援助します。	<ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室(ふれあい学級) 不安や悩みについての教育相談や習熟の程度に応じた学習指導を行うとともに、施設見学や料理教室の体験学習を3回実施した。 外国人児童・生徒学級 在籍児童・生徒数9人に対し、週2回の指導を実施した。 	○	保護者の不安な気持ちに寄り添い、事前の面談の充実を図った。また、児童・生徒の実態に応じて支援ができるよう、学校との情報共有を密にした。
	指導室	19 情報教育の推進	児童・生徒の情報活用能力を育成し、確かな学力の向上を図るために、教科指導におけるICTの活用を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 中学校10校へタブレット端末等を導入し、教科指導・校務環境を整備した。 小学校低学年では、基本的な操作の習得学習を行った。 小学校高学年および中学校では、各教科および総合的な学習の時間等におけるICTを活用した調べ学習やレポート作成を行った。 	○	画面展開や動画により、より分かりやすい授業の工夫を発見することができた。タブレットを含めて配付されているICT機器の有効活用が促進された。教員各自においてもICTスキルを向上させることができた。
	指導室	20 芸術・技術教育の支援	「小学校造形作品展」、「中学校美術作品展」、「中学校美術作品展」、「中学校技術・家庭科作品展」を開催し、児童・生徒の豊かな心情の陶冶や芸術・技術能力の向上を図るとともに、広く市民に教科への理解を得ます。	<ul style="list-style-type: none"> 小学校造形作品展 会期 1月26日、27日 会場 青梅市立美術館 中学校美術作品展 会期 1月17日～20日、22日 会場 中央図書館多目的室 中学校技術・家庭科作品展 会期 2月8日～13日 会場 中央図書館多目的室 	○	作品展に向けて、作品を製作する過程において自分なりに表現方法を工夫するなど豊かな情操を育むことができた。また、作品展を通して、自分の作品や他の作品の鑑賞をする中で、豊かな心情を養うことができた。
	指導室	21 スポーツ教育の振興	「中学校陸上競技大会」「中学校球技大会」「中学校駅伝大会」の開催を通して、精神力や体力を磨けるよう支援します。	<ul style="list-style-type: none"> 中学校体育連盟各部との連絡・調整を図りながら、会場確保等の事務を行った。 中学校陸上競技大会 実施日 7月17日 会場 都立阿伎留台公園 中学校総合球技大会 実施期間 8月 会場 市民球技場ほか 中学校駅伝競走大会 実施日 11月7日 会場 青梅市民球技場 中学生東京駅伝大会への参加 実施日 2月3日 	○	学校と連携を取りながら準備をすすめ、大きな事故なく開催ができた。「代表選手になって大会に出場し、良い成績を収める」といった生徒のモチベーションにつながっている。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 小・中学校教育の充実	教育指導担当から学務課へ移管	22 特別支援学級の運営	児童・生徒の障害に応じたきめ細かな教育を実施していくため、教育環境の整備を図ります。特別支援学級設置校に介護員を配置します。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の整備 東京都の制度改正に伴い、情緒障害等通級指導学級が廃止され、全公立小学校に特別支援教室を導入することとなった。このことに伴い、平成30年度では、市内小学校(東小を除く)全校で、特別支援教室導入が完了した。 また、平成31年度から特別支援教室を導入する中学校4校(第一中、第二中、西中、第七中)について、工事、備品・消耗品購入、周知等、必要な整備を行った。 ・介護員の配置 特別支援学級(固定)における児童・生徒の学校生活および学習活動の補助ならびに教員の教育活動を支援するために特別支援学級介護員を配置しているが、児童・生徒数に合わせ増員した(小学校24名→27名 中学校12名→13名)。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の整備 平成30年度で小学校(東小を除く)全校で、特別支援教室を開設した。また、平成31年度に特別支援教室を導入する中学校4校(第一中、第二中、西中、第七中)の整備を実施した。 ・介護員の配置 特別支援学級(固定学級)に在籍する児童・生徒数に合わせ、介護員を配置し、児童・生徒への指導の充実を図った。
	市民センター	23	会議室の提供、用具・備品等の貸出しなど	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAが主催する講演会や研修視察等に対し、会議室の提供、用具・備品等の貸出しなどの支援を行った。 	○	希望する日時に提供でき、PTA活動支援のため、一定の成果を上げることができた。
	社会教育課	24	PTAの活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中PTAが主催する講演会や研修視察等に対する援助を行い、子どもたちの健全な成長を目指して、親と教師が協力して家庭・学校・地域の教育力の向上を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校のPTA活動を支援した。 ・PTA連合会主催講演会の支援を行った。 ・用具・備品の貸出しを行った。 	○
(3) 家庭・学校・地域の連携	市民活動推進課	25	協働事業の支援	<ul style="list-style-type: none"> 行政と市民活動団体との協働事業を、青梅ボランティア・市民活動センターは、ボランティア・市民活動センターに関する総合的な相談窓口を設置し、情報の収集および発信、ニーズのコーディネート等、行政と市民活動団体との協働を推進している。 ・月1回の情報交換会を通して、協働事業や市民活動団体の活動状況等について情報共有した。 ・市民提案協働事業募集の周知等を青梅ボランティア・市民活動センターからも行うなどの連携を図った。 ・青梅ボランティア・市民活動センター職員が青梅市協働事業市民推進委員会委員として、協働事業の評価等について協議を行った。 ・市民活動団体向けの研修を組み、災害ボランティア活動の講演会を青梅ボランティア・市民活動センター職員と協働で開催した。 	○	平成30年度も様々な事業を通じて、青梅市における協働事業の推進を図ったため。
	市民センター	26	青少年対策地区委員会事業への支援	<ul style="list-style-type: none"> 青少年の健全育成を目指して実施する様々な青少年対策事業に支援協力を行います。「健全育成チラン」の配付、「健全育成標語看板」の作製などを行います。 ・青少年対策事業の事務的支援および会議室の提供、備品の貸出等を行った。(各市民センター) ・(青梅C)ティーボール大会、青梅っ子わいわいフェスタ、ミニ青梅マラソン大会、青梅地区親子ふれあい綱引き大会 ・(長淵C)親子ふれあい綱引き大会 ・(大門C)球技大会、親子綱引き大会、社会を明るくする運動、霞川清掃 ・(梅郷C)梅郷子ふれあい塾、ランニング教室、講演会、防犯パトロール ・(沢井C)星空観察教室、サウンドフェスタ三田、講演会、ランニング教室 ・(小曾木C)ジュニアリーダーキャンプ教室 ・(成木C)ジュニアキャンプ教室、和紙染め体験教室、少年少女マラソン大会 ・(東青梅C)霞川清掃、第八支会ハイキング、親子ふれあい綱引き大会および子どもの情報交換会、第八支会主催のささえあいフェスティバル ・(新町C)ドッジボール大会、体験学習バスツアー、親子いも掘り体験教室、天体観測会、食育講座 ・(河辺C)体験事業ジャガイモ掘り、多摩川1万人の清掃大会、健全育成標語看板清掃活動、防犯・安全パトロール、河辺市民センター文化祭の模擬店、河辺地区親子ふれあい綱引き大会 ・(今井C)社会を明るくする運動講演会、ふるさとまつり・ふれあい動物まつり 青少年健全育成チランを作成し、地区内自治会、子ども会育成会に配布した。また、健全育成立看板の作製をし、地域内に設置するための支援を行った。(各市民センター) 	○	<ul style="list-style-type: none"> 事務的、人的協力を行い各種行事の開催がスムーズに運ぶよう協力することが出来た。 青少年活動として各活動とも人気も高く喜ばれており、地域の方々の繋がりにも 寄与している。 青少年健全育成のため、各種事業への支援、協力を行い、一定の成果を上げることができた。 また、チランや看板の作製を行い、青少年健全育成活動を地域ぐるみで取り組むことの大切さを啓発することができた。
	子ども家庭支援課	27		<ul style="list-style-type: none"> ・各地区における青少年の健全育成事業の推進を図るため、青少年対策各地区委員会に対し、補助金を交付した。補助金交付額計：2,000千円 ・青少年健全育成チランの配布を行った。 ・第17回青梅市親子ふれあい綱引き大会を開催した。参加チーム数：46チーム、参加者数：1,000人(応援者を含む。) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年対策各地区委員会において、青少年の健全育成を目的とした各種事業を、事業実績報告書により確認したところ、前年度と同規模で実施されていたため。 ・青少年健全育成チランについて、全小・中学生および関係機関に配布するとともに、自治会回覧により周知に努めた。また、市内の高等学校2校には、各学級に掲示の依頼をしたため。 ・親子ふれあい綱引き大会は、参加チーム数の減少はあるが、ふれあいの部については、前年度と同数の参加チームがあり、開催の目的は、概ね達成されたと考えるため。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由	
(3) 家庭・学校・地域の連携	市民センター	28	青少年が地域で健やかに成長できるよう、学校等とも連携し余暇指導、青少年指導者への協力および青少年団体の指導育成を行います。	青少年が地域で健やかに成長できるよう、余暇指導、青少年指導者への協力および青少年団体の指導育成を行った。 (各市民センター) ・(青梅C)青少年対策青梅地区委員会において、現青少年委員を常任委員と位置づけ、各種青少年事業等で各種団体の連携調整および指導的役割を担った。 ・(長淵C)センター文化祭で青少年委員のブースを設置。 ・(長淵C、東青梅C、新町C)青少年委員の協力のもと青少年の指導育成事業としてジュニアリーダー講習会を実施。 ・(小曾木C、成木C共催)キャンプ教室(1泊2日)を支援・協力した。	○	青少年の育成の支援の一つとして、地域内のジュニアリーダーの養成を支援し、もって地域の青少年の健全育成を図る取り組みを支援している。 ・(青梅C)青少年委員が単なる青少年役員ではなく、専門的知識を有する者として、学校・家庭・地域の連携および青少年の余暇指導について、先頭にとって活動を行ったため。 ・(沢井C)三田地区を見守る会事務局として、青少年指導者への協力、支援を行った。	
	社会教育課	29	青少年委員活動	・定例会12回(毎月第二火曜日) ・委員研修 実施日 10月27日 会場 高尾の森わくわくビレッジ アイスブレイクの手法やPAIについての研修を実施した。 ・多摩第3ブロック研修 実施日 10月6日 会場 秋川溪谷戸倉体験研修センター 戸倉しろやまテラス あいさつ標語カルタを体験した。 ・青少年リーダー育成研修会への協力 ・成人式への協力 ・自主事業の実施	○	各地域においてジュニアリーダー講習や子供会等に協力し青少年活動の指導を行った。 また、定例会を開催し、各地域での活動報告や自主事業の企画等を話合った。 青少年の余暇指導のため各種研修を実施した。 自主事業を2回実施した。 青少年委員の周知を図るため広報紙「みらい」を発行した。	
	子ども家庭支援課	30	青少年問題協議会	青少年の健全育成を目指して青少年健全育成基本方針の策定や様々な支援協力を行います。 「健全育成チラシ」や「休みのしおり」の作成などを行います。	・「青少年健全育成チラシ」を作成し、小・中学校、各市民センター、関係機関等に配付するとともに、全ての自治会に回覧を依頼した。また、「休みのしおり」を3回発行し小・中学校の児童・生徒に配布した。 ・協議会を以下の内容により2回開催した。 【実施日:7月3日】 平成29年度青少年健全育成活動状況について 平成31～33年度青梅市青少年健全育成基本方針(案)について 平成30年度青少年健全育成活動計画について 平成30年度青少年健全育成環境整備対策について 最近の少年非行について 情報交換 【実施日:2月7日】 平成30年度青少年健全育成活動状況について 平成31～33年度青梅市青少年健全育成基本方針(案)について 青少年健全育成チラシについて 最近の少年非行について 情報交換	○	協議会の開催により、青少年指導、育成等に必要な関係行政機関相互の連絡調整が図られた。また、事業として健全育成チラシ等を作成し配布したほか、カラオケ店、ゲームセンター、コンビニエンスストア等の経営者に対し、青少年の非行防止と健全育成への協力について依頼し、青少年の健全育成環境整備対策に努めたため。 青少年健全育成チラシについては、市内の高等学校2校に各学級への掲示依頼を行った。 平成31～33年度青梅市青少年健全育成基本方針を策定した。
	社会教育課	31	子ども会・保護者会等の学習活動への支援	子ども会・保護者会等の学習活動に対する支援を行い、青少年の健全育成を図ります。	用具・備品の貸出を行った。 子ども会への貸出し備品数は57件。	○	用具の貸出しのみならず、老朽化した備品については貸出し状況を勘案しつつ、部品交換を行った。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 家庭・学校・地域の連携	社会教育課	32 放課後子ども教室	スポーツや文化活動やさまざまな体験活動、地域住民との交流活動などを実施します。学ぶ意欲のある子どもに、学習機会を提供します。	<p>藤橋小学校、若草小学校を新規開設校とした計15校で、おうち放課後子ども教室「タヤケランド」を実施した。また、各教室では放課後児童クラブと週1回程度の一体・連携開催を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一小(全33回) 延べ参加人数 1,261人 ・第二小(全40回) 延べ参加人数 1,389人 ・第三小(全30回) 延べ参加人数 941人 ・第四小(全86回) 延べ参加人数 2,507人 ・第五小(全121回) 延べ参加人数 4,689人 ・第六小(全37回) 延べ参加人数 863人 ・第七小(全101回) 延べ参加人数 3,654人 ・成木小(全42回) 延べ参加人数 621人 ・河辺小(全26回) 延べ参加人数 1,344人 ・新町小(全21回) 延べ参加人数 1,221人 ・霞台小(全39回) 延べ参加人数 858人 ・友田小(全31回) 延べ参加人数 975人 ・今井小(全33回) 延べ参加人数 1,691人 ・若草小(全18回) 延べ参加人数 704人 ・藤橋小(全23回) 延べ参加人数 455人 <p>主な活動内容:ドッジボール、バドミントン、工作、サッカー、卓球ほか</p>	○	藤橋小学校は6月、若草小学校は9月から開始し、順調に実施することができた。また、放課後児童クラブとの一体・連携開催についても各教室で週1回程度の実施を行うことができた。
	社会教育課(図書館)	33 職場体験事業	職場体験学習として市内の中学生、高校生を受け入れ、図書館業務全般を体験します。	5月30日から12月13日にわたり、市内・市外の中学生および高校生を受け入れ、図書館業務全般について、体験学習を実施した。 中学校 8校 27人、高等部・高等学校 2校 12人	○	各学校からの要望により、中学校および高等部・高等学校を合わせて全10校、39人の生徒を受け入れた。
	指導室	34 地域人材の活用	地域の優れた人材を掘り起こし、地域と学校が連携協力し、子どもたちの健全育成に活用します。	<p>地域人材をゲストティーチャーとして、総合学習、放課後の補習などを行った。 また、保護者等のボランティアにより、図書室の整備等が行われた。 学校における放課後等の補習事業「ステップアップクラス」においても、校長が推薦する地域の方や卒業生等に学習支援員としてご活躍いただいた。</p>	○	地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。図書室整理・学習支援・安全パトロールなどで、なくてはならない存在となっている。地域・保護者の観点から、よりよい教育活動充実のための意見交換ができています。
社会教育課	35		地域の人材を放課後子ども教室で活用した。親子での体験教室や国際理解講座の夏の特別教室等の講師として活用した。	○	「楽しい先生が教える！水墨画教室」、「初心者の菊づくり講習会」等の講座で講師として活用した。	

2 生涯学習の場と機会の拡充

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 有効活用	スポーツ推進課	36 学校体育施設開放	生涯スポーツの普及・発展、市民の健康と体力の増進を図るため、小・中学校の体育施設(校庭・体育館)を市民スポーツ団体の利用に供します。	登録団体 202団体 利用回数 6,233回 利用人数 150,000人	○	市内の団体への貸出を行うことで、レクリエーションの場としての施設の活用を図った。利用団体への利用に関するマナーの徹底や近隣住民への事業実施に関する理解促進について引き続き課題が残る。
	秘書広報課	37 公共施設見学会	市内の公共施設等の状況を見て、考えていただく機会を提供するため、市民を対象に実施します。	公共施設見学会を2回開催した。 1回目…青梅市中央図書館・小学生の親子6組14人参加 2回目…青梅市役所・7人参加	○	市民の関心や意欲の高まりを受け、今後は、各公共施設が主体となって見学会等を開催し、さらなる充実に努めることも必要であると考えられる。
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	高齢介護課	38 福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者が趣味を広げ、教養を深められるよう各種講座を開催します。活動の成果を発表する場として、高齢者教養講座合同文化祭を開催します。	高齢者教養講座を5講座実施した。 詩吟 年21回 16人 毛筆 年18回 19人 ペン習字 年18回 13人 茶道 年24回 15人 華道 年18回 9人 平成30年度高齢者教養講座合同文化祭開催 会場 福祉センター 参加者 205人	○	高齢者教養講座は、生きがいのある生活や高齢者の外出支援となっており、また、成果を発表する場である文化祭を開催したことで、地域とのふれあいにつながり、高齢者活動のPRとなった。
	高齢介護課	39 地域保健福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者の生きがい、健康増進、教養を高めることを目的に、沢井・小曾木保健福祉センターでは、各種教室を開催します。	高齢者教養講座を4講座実施した。 沢井保健福祉センター 茶道 年30回 6人 華道 年16回 7人 小曾木保健福祉センター 絵画 年1回 8人 合唱 年30回 29人	○	生きがいのある生活や高齢者の外出支援として効果的であり、地域高齢者のふれあい・親睦の場となった。
	高齢介護課	40 敬老会	75歳以上の方を総合体育館に招待し、式典・演芸を行い、長寿をお祝します。	75歳以上の高齢者を対象に敬老会を開催した。 開催日 9月29日(土) 会場 総合体育館 参加者 2,026人	○	地域高齢者のふれあい・親睦の場となっており、発表者や芸能人を見るために参加する高齢者の外出支援にもつながった。
	商工観光課	41 観梅市民まつり	3月、「梅の里復活」を目指す吉野梅郷において、パレードを始め様々なイベントを楽しみながら、自然に親しみ、参加者同士が交流を深めることができる機会として開催します。	昨年に引き続き、梅の公園と中道梅園に梅樹を植栽し、梅の公園には1,224本、中道梅園には49本の梅樹となった。また再植栽後3回目の「吉野梅郷梅まつり」を開催した。 観梅市民まつり 実施日 3月10日(日) 会場 神代橋通り 参加者 13,000人	○	梅の再植栽が始まり、3回目の梅まつりが開催できたため
	商工観光課	42 後援等協力事業	青梅市の産業や観光を知り、自然に親しむ機会や参加者同士の交流が図れる機会として、産業観光関連のイベントに協力します。 ・産業観光まつり、カンタンを聞く会	・第51回青梅産業観光まつり 実施日 11月3日(土)、4日(日) 会場 永山公園グラウンド 参加者 45,000人 ・第63回カンタンをきく会 実施日 9月1日(土)～2日(日) 1泊2日 会場 御岳山 参加者 68人	○	青梅産業観光まつりは、前年度に引き続き、市民参加型のステージ数は少なかったものの、特別協賛によるイベントや学校関係の招待枠を追加した。2日目は天候に恵まれず客足がやや遠退き、前年度より来場者は少なかったが、盛況に開催された。カンタンをきく会は、毎年参加者に好評であり、第63回と長く開催できているため。
商工観光課	43 昭和レトロ商品博物館	商店街空き店舗活用推進事業として、平成11年に住江町に開館した博物館。昭和30～40年頃のお菓子や菓などの商品パッケージを中心に、昭和を彩った懐かしい商品文化をお楽しみください。2階には、小泉八雲作の「雪女」と関わりのある資料を展示。	・昭和レトロ商品博物館 入場者数 15,008人	○	商店街の活性化、空き店舗をなくすことを目的にされた商店街活性化事業であり、商店街の景観維持の意識やまちづくり意欲を高めるとともに、青梅中心市街地の観光スポットのひとつとして、来街者の集客に大きな効果があった。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	商工観光課	44 青梅赤塚不二夫会館	商店街振興事業として、住江町商店街振興組合が、青梅駅周辺商店街の賑わいを創出するため、平成15年10月に開館。 明治時代後期の蔵に昭和を代表する漫画家「赤塚不二夫氏」の原画や貴重な写真などを展示。	・青梅赤塚不二夫会館 入場者数 15,279人 ・青梅赤塚不二夫会館 15周年企画「ニヤロメなのだ！」 実施日 平成31年2月24日～3月3日 会場 青梅赤塚不二夫会館 来場者 2,000人	○	日本のアニメやマンガがクールジャパン・コンテンツとして世界的に注目され、国内外には多くのファンが存在する。青梅赤塚不二夫会館は、アニメ・マンガの聖地のひとつとして、一般社団法人アニメーターリズム協会に選定され、広域周遊観光ルートとして新たな経済効果を創出している。 青梅駅周辺商店街の中心的存在の赤塚不二夫会館を、遠方からも青梅へ訪れる人が増え、住江町商店街のみならず、青梅全体の商店街の活性化に繋がっている。
	農林課	45 シイタケ栽培講習会	農業への理解を深め、収穫の喜びを体験していただくための講習会を開催します。	開催日:2月24日 会場:花木園 内容:原木への種ごまの打ち込み、育成管理指導 指導:青梅きのこ生産振興会 参加人数:70人	○	例年募集人数に対して、応募が倍以上ある。参加者からは、講義と実習を通して、直接農業生産の仕組みを知ることができると好評を得ている。
	農林課	46 青梅市農業祭	市内の農畜産物の展示や直売などにより、農業への理解と関心を深めてもらうとともに、参加者同士のふれあいの場を提供します。	実施日 11月3日～11月4日 会場 永山公園総合運動場 内容 第51回青梅市農産物共進会(出品数221点)、農産物等の直売・半額セール	○	農産物の展示や直売などにより、地産地消の推進、農業への関心を深めてもらうことができた。例年共進会の出品点数が減少していたが、30年度は出品点数が増加した。
	社会教育課	47 16ミリ発声映写機・ビデオプロジェクター操作講習会	映写機の操作方法、映写方法、映写会場の作り方などを学ぶ講習会を実施します。	・ビデオプロジェクター操作講習会 6月28日、3月11日実施 計15人修了 ・16ミリ発声映写機操作講習会 10月30日実施 計4人修了	○	ビデオプロジェクター操作講習会は、6月28日に11名、3月11日は4名の参加があった。
	社会教育課	48 成人式	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い、励まします。 1月2日曜日(成人の日) 総合体育館ホール	実施日 1月14日 会場 総合体育館 出席者数 1,039人 昨年度に続き新成人インタビューを実施し、プロジェクターを通して会場内へ流した。写真撮影コーナーを設けた。新たに誓いの言葉を行った新成人がスポーツクライミング選手であり、紹介のビデオ上映を行った。	○	ここ数年では最も低い出席率であったが、70%以上ではあった。式典は比較的静かに厳かに行われた。
	社会教育課	49 掌理団体定期演奏会等	・青梅児童合唱団定期演奏会 ・青梅市青少年吹奏楽団定期演奏会 ・青梅市民合唱団定期演奏会 ・ファミリーコンサート ・ミニコンサート	・市民合唱団 ミニコンサート 実施日 8月26日 観客数 50人 第53回 定期演奏会 実施日 12月16日 観客数 500人 ・青少年吹奏楽団 第49回 定期演奏会 実施日 11月25日 観客数 250人 ・児童合唱団 ミニコンサート 実施日 8月22日 観客数 60人 第41回 定期演奏会 実施日 9月9日 観客数 250人 ・3団体合同 第42回 ファミリーコンサート 実施日 3月24日 観客数 250人	○	各掌理団体はそれぞれ定期演奏会を行い、児童合唱団と市民合唱団は市役所2階姉妹都市コーナーでミニコンサートを行った。その他各団体自主的に対外演奏活動を行っており、日頃の練習の成果を市民に発表することができた。一部の演奏会では観客数が少なかったため、今後は周知等を工夫する必要がある。
	社会教育課	50 市民大学	人文・社会科学・自然科学・産業技術・芸術文化・市民生活・国際関係等の中から現代的課題に対応する学習機会を提供していきます。	・特別展「縄文」—1万年の美の鼓動 関連文化講演会 参加者数145人	○	NHKの企画展関連文化講演会を利用した。参加者からは非常に好評であった。今後も様々な分野の講座をバランスよく企画していく。
	社会教育課	51 農業食育体験教室・ふれあいまつり販売体験	野菜の栽培や収穫、勝利までの作業を体験し、農業への関心を持ち理解を深めることを目的に、半年間の体験教室を行います。ふれあいまつりに参加し、野菜の販売体験を行います。 ・東京都農林水産振興財団・青梅食育クラブ共催事業	農業・食育体験教室として全9回の講座を実施し、農業や食育について学んだ。また講座の中で河辺ふれあいまつりに参加し、講座で育てた野菜を販売する体験を行った。 農業・食育体験教室 延べ参加人数 324人	○	収穫以外の農作業を体験し、また作ることで食べることのつながりを学ぶために料理教室や試食だけではなく、販売体験も行った。参加者同士の交流をさらに促進し、体験活動の充実を図る。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	社会教育課	52 豊かに生きるための教室・講座等の実施	趣味を広げ、知識・教養を深め、参加者同士の交流を広げるため、人生を豊かにする教室・講座等を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> ・星空さんぽ～惑星と季節の星座を見よう～(28人) ・飛び出せ！夏のサイエンスキッズ3講座(66人) ・飛び出せ！サイエンスファミリー(39人) ・むかし食育体験～味噌の蔵出し体験～(17人) ・キッズ☆体験教室 むかし食育体験～味噌づくり教室～(30人) ・キッズ☆体験教室 親子で体験！和菓子づくり(15人) ・キッズ☆体験教室 フェルトで作ろう！ミニチュアガーデン(16人) ・キッズ☆体験教室 ガラスのサンキャッチャーを作ってみよう！(16人) ・初心者のかぶり作り講習会(26人) ・国際理解講座特別講座2講座(97人) 青梅市生涯学習推進市民会議企画講座 <ul style="list-style-type: none"> ・初めてのヨガ(21人) ・秋の芸術講座3講座(131人) 市民センター共催事業 <ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピックと青梅の文化(67人) ・夏休みこども陶芸教室 in 明星大学(24人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 20講座 774人	○	少年教育から成人教育まで幅広く行い、その形態も講演会形式、体験型など様々な形で行った今後も様々な講座をバランス良く企画する。
	社会教育課	53 生涯学習フェスティバル(釜の淵新緑祭)	新緑の釜の淵公園・郷土博物館・旧宮崎家・釜の淵市民館を生涯学習サークルの発表の場とし、楽しいイベントを通じた市民の交流の場とします。	生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2018～ 実施日 5月12日、13日 会場 釜の淵公園および周辺施設 延べ参加人数 3,264人	○	38イベントを実施した。実行委員会形式による開催で、準備や片付けなども実行委員協力のもと行った。
	文化課	54 郷土博物館		郷土博物館、旧宮崎家住宅を発表の場として会場を提供した。	○	実行委員会協力のもと、会場準備、開催を実施し、発表の場としてスムーズに実行できた。
	文化課	55 展示(郷土博物館)	収蔵資料を中心に青梅市の歴史や自然を紹介する常設展、寄贈された民具や古文書を紹介する新収蔵品展、郷土の歴史や文化財をテーマとした企画展・特別展を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展「郷土のあゆみ」4/1～3/31(通年) ・収蔵品展「なんだこれ！？一昔の道具展」 会期 4/1～4/15 観覧者数 1,129人 ・企画展「明治時代の青梅ー近代化と人々の生活ー」 会期 4/24～7/8 観覧者数 4,955人 ・企画展「青梅市の板碑ー石に込められた中世人の想いー」 会期 7/21～10/8 観覧者数 3,728人 ・「新収蔵品展2018」 会期 10/20～1/6 観覧者数 3,693人 ・企画展「青梅市の文化財住宅～民家と町屋のしくみ～」 会期 1/19～3/31 観覧者数 2,818人 	○	年4回の企画展等を開催し、平成30年度の総来館者数は17,416人となり、昨年度の17,608人より192人下回った。 企画展「明治時代の青梅」では、明治維新150年や古写真などを初めて公開するなど、話題性を提供することができた。 また、企画展「青梅市の板碑」では、新しく発見された板碑などを含めた展示を行うことで郷土の歴史の掘り起しを図ることができた。 企画展「青梅市の文化財住宅」では、市内にある文化財住宅の普及を図ることができた。
	文化課	56 郷土博物館講座	郷土史関係の資料や展示資料を中心に講演会、解説講座を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展関連講座・展示解説講座「ナイス精神」発祥の地・青梅ー明治後期の地域事情と高等教育志向ー 実施日 6/30 講師 沖川仲夫 参加者 57人 ・企画展関連講座・展示解説講座「板碑とは何か」 実施日 9/8 講師 大澤清吾 参加者 49人 ・企画展関連講座・展示解説講座「青梅市の文化財住宅」 実施日 3/9 講師 河東義之 参加者36人 	○	企画展のテーマに関連した歴史講座を開催し、郷土の歴史や文化財に関する知識について学べるようになった。 また、講座終了後には企画展の展示解説講座を郷土博物館で実施し、企画展の理解を深めることができた。
	文化課	57 文化財の調査保護	市内の新たな歴史発掘のため、各種文化財等の調査を実施するほか、指定文化財の保存事業として、文化財所有者に対する修理補助を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ○開発などに伴う埋蔵文化財確認調査3件 ○文化財保存修理補助事業 ・国指定重要文化財「観音寺本堂ほか2棟」防災設備の改修補助額 2,888千円 ・東京都指定無形民俗文化財「青梅市虎柏神社の祭礼行事」幟旗ポール設置補助額 82千円 ・東京都指定史跡「海禅寺境域」台風被害の復旧補助額 615千円 ・青梅市指定天然記念物「御嶽神社参道杉並木」危険木の伐採補助額 522千円 ・青梅市指定無形民俗文化財「野上春日神社獅子舞」さら衣装の修理補助額 63千円 ・青梅市指定無形民俗文化財「梅郷獅子舞」花笠衣裳新調補助額 47千円 	○	埋蔵文化財の確認調査は、開発などによって破壊される前に実施し、遺跡の内容を把握することができた。 文化財保存修理補助事業は、保存修理費の一部を補助することによって文化財所有者の負担を軽減するとともに、文化財を保存し後世に伝えることができた。 また、台風被害により実施した指定文化財の災害復旧事業についても、補助金を交付し、所有者の負担を軽減することで、文化財を保存することができた。
	文化課	58 文化財の紹介・普及	文化財等の解説を広報などに掲載します。また、市内の文化財を歩きながら見て回る事業を実施し、加えて文化財解説ボランティアを養成し、その解説活動を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・「青梅市の文化遺産」市広報毎月15日号に掲載 ・「青梅市文化財ニュース」毎月15日発行 ・「文化財保護指導員活動報告書」毎年発行 ・小中学生向け文化財案内書「おうめ文化財さんぽ」の発行 ・「わがまち青梅講座」の開催(4/7、11/17、3/2) ・ボランティア育成講座の開催 	○	小中学生向け文化財案内書「おうめ文化財さんぽ」では、市内小中学校の先生や文化財保護指導員に協力いただきながら作成し、市内の小4年生から中学3年生までの全クラスや図書館などに配付した。 また、「わがまち青梅講座」では、文化財の紹介や解説活動などを実施し、アンケートの結果でも好評をいただくことができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	文化課	59 実技講座(美術館)	絵画や版画の実技を通して、美術に親しんでいただけます。市民を対象に年2～3講座実施します。	・実技講座「屋外デッサン教室」(一般対象) 講師 平野健太郎氏(福生市在住、日本画家) 実施日 6/19(火) 参加者 16人 ・親子向け実技講座「オリジナル恐竜づくり」(幼稚園児以上の子供とその保護者対象) 講師 美術館職員 実施日 8/12(日) 参加者 1回 21人 2回 21人 計42人	○	「屋外デッサン教室」は、企画展「再考 西多摩を描く1」の関連事業として、西多摩在住の日本画家を招き、画家が題材として選んだ石川酒造において、鉛筆によるデッサンを行った。多くの参加者があり、好評であった。 「オリジナル恐竜づくり」については、特別展「ダンボールアート遊園地」の関連事業として実施した。3種類の白色ダンボールキットから好きなもの1種類選び、着色や装飾を施すもので、多くの子供たちが参加し、創造性豊かな作品が出来上がった。
	文化課	60 常設展(美術館)	青梅市ゆかりの作家小島善太郎、藤本能道の作品を常時展示紹介いたします。	青梅市ゆかりの作家小島善太郎、藤本能道の作品をコレクションから適宜選り出し、常設展示コーナーに両作家の作品を、企画展等の日程に合わせて、毎回4点程度展示した。なお、本年度の展示替えの回数は4回であった。 ※市役所2階展示コーナーに小島善太郎、藤本能道の作品を展示した。年3回展示替えした。	○	美術館のほか、市役所2階展示コーナーを使用し、展示替えを行うことによって、多くの収蔵作品を市民に紹介した。
	文化課	61 特別展・企画展(美術館)	一定のテーマに従い、画家や版画家の回顧展、分野や時代別の展示会を開催します。(企画展は、館蔵品を活用し、一定のテーマに従って作品を選び出し、展示します。特別展は原則、他の美術館等から作品を借用して展示する展示会で、隔年で開催します。共催展は、美術館と他団体との共催事業です。)	・企画展「没後50年 夏目利政展」1作家54点 会期 4/7(土)～5/20(日) 観覧者数 1,104人 ・企画展「再考 西多摩を描く1」4作家45点 会期 6/2(土)～7/8(日) 観覧者数 831人 ・特別展「ダンボールアート遊園地 集まれ子どもたち!!」1作家99点 会期 7/21(土)～9/9(日) 観覧者数 11,563人 ・企画展「再考 西多摩を描く2」4作家46点 会期 9/22(土)～11/4(日) 観覧者数 780人 ・企画展「没後30年 城所祥展」1作家108点 会期 11/17(土)～1/14(月・祝) 観覧者数 1,125人 ・共催展「青梅市小学校造形作品展」約1,000点 会期 1/26(土)、27(日) 観覧者数 2,840人	◎	年間を通じて、バラエティーに富んだ展示会を開催することが出来た。 「没後50年 夏目利政展」は、画家の没後50年にちなんだものとして企画した。当館にはデッサンを含む自画像を多く収蔵しており、他館では紹介される機会の少ない画家であることから、関心を持つ層には好評であった。 「再考 西多摩を描く」は、約20年前に4人の画家に委嘱して描いてもらった西多摩地区の作品を市町村別に展示し、2期に分けて開催した。また、各作品の描いた場所を可能な限り調べ、現在の風景を撮影した写真も並べた。この結果、展示を通して約20年の歳月の流れと、絵画と写真の違い、各画家の個性がよくわかり、来館者には興味深いものとなった。 特別展「ダンボールアート遊園地 集まれ子どもたち!!」は、1万人を超える入館者数を獲得することができた。当館では、子供向けの展示会をほとんど実施してこなかったが、同展示会は、未就学児から小学生を主要な来館者層として企画したもので、会期が夏休み中であつたことから、遠方からの来館者も多く、非常に好評であつた。 「没後30年 城所祥展」は、館蔵作家である城所祥が没後30年を迎えたことから開催に至つた。収蔵作品に加えて、城所作品を最も多く収蔵している八王子市夢美術館から、版木や作品を借用したことから、作家の実像に迫る展示会となった。
	文化課	62 ビエンナーレOME	東京都全域を対象に、多くの優れた新人画家の発掘をめざす公募展を隔年で開催します。	多摩秀作美術展から公募展として続けてきた「ビエンナーレOME」は、実施目的として掲げられている「優れた新人画家の発掘」が、さまざまな要因から、実現できにくくなつていことから、平成30年度をもって休止とした。	—	
	文化課	63 美術講演会	画家や美術評論家を講師に迎え、美術に関する講演会を開催し、美術の関心を深めていただきます。	「没後30年 城所祥展」の開催にあわせて、城所氏の作品を多数借用した八王子市夢美術館学芸員の浅沼墨氏をゲストにお招きし、ゲスト学芸員によるギャラリーガイドを11月25日に実施した。	◎	浅沼氏は勤務先の八王子市夢美術館において、かつて開催された城所祥展の担当者でもあつたことから、さまざまな資料もご用意され、作家にまつわるエピソードも話されたことから、19人の参加者にとっては満足度が高かつた。
	文化課	64 市民映画会	広いジャンルの話題作・名作を上映します。	平成28年度末で青梅市民会館が閉館となつたため実施せず。	—	
	文化課	65 市民劇場	芸能の各分野で活躍しているプロを招いて、身近に鑑賞することにより教養を高めます。	平成28年度末で青梅市民会館が閉館となつたため実施せず。	—	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	社会教育課(図書館)	66 中央図書館講座等	図書館の広報と利用者サービスの拡充を図るため、原画展や講演会などを実施します。	市民の教育と文化の向上を図るための学習機会を提供するため、次のとおり各事業を実施した。 ○展示 ・ハンディキャップコーナー資料展示(2階フロア)4月1日～3月31日 3回 ・資料展示(3階フロア)4月1日～3月31日 38回 ・児童コーナー資料展示(3階フロア)4月1日～3月31日 19回 ・資料展示(4階フロア)4月1日～3月31日 8回 ・分館資料展示(9分館)4月1日～3月31日 502回 ○講座 ・すばらしい紙芝居と演じ方講座 10月27日、11月4日 参加人数27人 ・やっちゃんのジャズ講座 12月22日 参加人数44人 ○朗読会 ・この指とまれ朗読会 5月19日 参加人数83人 ・古典の日朗読会「生誕260年 良寛さん」11月10日 参加人数60人 ○釜の淵新緑祭おはなし会 5月13日 参加人数53人 ○利用者懇談会 3月23日 参加人数 4人 ○学校図書館ボランティア修理講習会 7月3日、9月26日 参加人数24人 ○青梅市図書館を使った調べるコンクール 応募作品数 小学生の部:320作品 中学生の部:180作品 表彰式 12月1日 ○イベント「かえてきた図書館ワンダーランド!」3月2日 ①おはなし会 参加人数7人、②子どもおはなし会 参加人数17人、③ちっちゃいこのおはなし会 参加人数 17人、④企画展示 参加人数102人	○	1年を通じて定期的展示や講座を開催し、多くの参加者を得ることができた。「第2回青梅市図書館を使った調べる学習コンクール」を開催し合計500作品の応募があった。また、イベント「かえてきた図書館ワンダーランド!」を開催し、多くの参加者を得ることができた。今後も各事業の開催回数や内容の充実を図ることが課題である。
	社会教育課(図書館)	67 工作及び手芸教室	工作などを通じて手作りの楽しさ、創造することのおもしろさを体験する各種教室を実施します。	・中央図書館工作教室 8月3日、8月4日 2回 32組 ・分館図書館工作教室 4月22日～3月27日 18回 参加者504人	○	子ども向けの工作教室を中央図書館および7分館図書館で合計20回開催し、参加者が増加した。今後も開催場所、回数や内容の充実を図ることが課題である。
	社会教育課(図書館)	68 上映会	中央図書館多目的室において、映画会を行います。	・映画会 4月22日～3月24日 12回 参加人数 624人 ・子ども映画会 5月26日～3月24日 4回 参加人数 150人 ・バリアフリー上映会 12月2日 参加人数 39人	○	一般および子ども向け映画会を17回開催し、813人の参加者があった。今後も開催回数や内容の充実を図ることが課題である。
	選挙管理委員会	69 明るい選挙推進講演会	明るい選挙を推進していく観点から、明るい選挙推進委員および一般市民を対象に、講演会を開催します。	以下のとおり、明るい選挙推進委員を対象に、管外研修において講演を実施した。 実施日:12月12日 演題:「サンフランシスコ講和条約に関係した白洲次郎について」他 講師:青梅市話しあい指導員 坂口芳文 参加人数:41人	○	管外研修の視察先である「町田市立自由民権資料館」の近くには白洲次郎氏の邸宅・武相荘があるため、それに関連して白洲氏の経歴やサンフランシスコ講和会議に係る講演を行った。平成30年度は委員改選の年であり、新たな委員が大勢参加していたが、講師のユーモアを交えた話を聞き、楽しく知識を身につけていた。次回は一般市民に向けて広く公開した形で講演を行いたい。
	農業委員会	70 親子農業体験会	田植え・稲刈りといった農作業を体験していただき、市民と市内農業とのふれあいを図ります。	田植え 実施日 6月23日 参加予定人数34人(24家族) 稲刈り 実施日 10月13日 参加人数32人(23家族) 圃場所在地 藤橋2丁目 講師 農業委員会経営部会	○	農業体験により農業への関心や理解を深めてもらうことができた。雨天のため、23年田植えができなかったが、30年度は田植えが実施できた。
	吹上中学校	71 本物にふれる会	子どもたちに本物の文化・芸能・スポーツにふれることを目的に、鑑賞教室や講演会を毎年実施します。保護者および近隣の自治会・地域住民にも参加を呼びかけます。毎年10月実施	音楽会「音楽の贈りもの」演奏アンサンブルプログラム 後援 公益法人 青梅佐藤財団 実施日10月13日(土) 参加人数 生徒160人、保護者・地域住民等 50人 合計 210人	○	PTAの企画・運営のもとに毎年行っているが、ここ数年はスポーツが続いたため、音楽鑑賞会を実施した。後援・演奏者ともに青梅との関係が深く、生徒だけではなく、地域住民や保護者にも「共感を持ってお話(楽器や曲について)を聞いた」「演奏者が生徒の中まで入って楽しそうに演奏してくれ、生の音の美しさや迫力、音楽の楽しさや素晴らしさを感じた」という意見多数だった。
	青梅市青少年委員協議会	72 ますつりにチャレンジ	青梅の自然を生かし、川でますを釣ってさばき、食べるまでを、体験してもらいます。	「ます釣りにチャレンジ!2018」実施 実施日 5月13日 会場 成木市民センターほか 参加人数 39人	○	小中学生を対象にます釣り体験を実施した。
	青梅市青少年委員協議会	73 集まれおうめっ子	竹・炭火・森など毎年テーマを変え、子ども達が自然に触れる機会を提供します。	「集まれおうめっ子!食の巻」 実施日 10月14日 会場 成木市民センター 参加人数 16人	○	小中学生を対象に火おこし体験と野外炊飯、昔遊び体験を実施した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 共に生きるための学習機会の充実	秘書広報課から市民安全課へ移管	74 平和の写真展の開催	世界の恒久平和を希求することをテーマとした写真展を開催し、市民が平和について考える機会とします。	・国境なき医師団写真展「～遠くで輝く、小さな命～」 実施日 12月11日～16日まで 会場 青梅市中央図書館 入場者数 877人 ・平和講演会「草谷洋光平和講演会」 実施日 12月15日 会場 市役所2階会議室 参加者数 130人	○	世界の恒久平和の実現を願い、また、平和の尊さを再認識するため、国境なき医師団が戦時下の子どもたち等を撮影した写真展および医師団所属の草谷洋光医師による講演会を実施し、多くの市民等に対し広く周知することが出来た。
	秘書広報課	75 国際交流活動支援	国際交流団体の国際交流事業に対する補助(国際交流基金)等の支援を行い、活動の活性化を目指します。	市内の国際交流団体に対して補助金を交付した。 ・海外派遣事業 1団体 ・語学研修事業 2団体 ・文化交流事業 1団体 ・その他の事業 1団体	○	ドイツ語、中国語の語学研修に加え、市内在住外国人の交流の場として実施している国際交流の広場へ補助を行い、市民の国際交流の推進の一助となっている。 また、青梅市日本中国友好協会が行った「第8次市民友好訪中団」に対して補助を行い、市民交流の進展が図られた。
	秘書広報課	76 通訳ボランティア	青梅マラソン大会参加外国人選手の通訳を、ボランティアの協力を得て、国際的な交流の輪が広がるよう支援します。	2月16日、17日の2日間、青梅マラソンの外国人選手に対し、通訳語学ボランティアの協力を得て支援した。 ・中国語ボランティア 8人 ・英語ボランティア 4人	○	青梅マラソン大会には、毎回、多くの外国人ランナーが参加している。 英語ボランティアは、主に受付で通訳業務を行った。 中国語ボランティアは北京市から出場の9名に対し、コース下見から大会当日までのサポートを行った。北京市民とスポーツを通じた交流が深まった。
	企画政策課から市民活動推進課へ移管	77 男女平等講座の開催	男女平等参画の視点に立った講座を実施します。	男女平等参画の意識啓発のため、各種の啓発講座を開催するとともに、「市民のくらし展」や市役所・市民センター等でパネル展を実施し、啓発を図った。	○	啓発講座については、前年度の実施状況を踏まえて内容を充実を図った。高校生対象1校に加え、中学生(3年生)を対象としたデートDV講座を、2校で実施した。
	企画政策課から市民活動推進課へ移管	78 女性の就業支援	働く女性の能力開発および就業意欲向上のための講座を開催し、情報提供を行います。	・ハローワーク青梅および商工観光課と共催で、これから働こうとする女性を対象とした「女性の再就職支援パソコン講座(ワード・エクセルの基本操作やメール文章作成等)」を開催した。7月2～13日(全4回) 参加人数:48人 また、商工観光課と共催で、働く女性を対象とした「働く女性のスキルアップパソコン講座(エクセル関数)」を開催した。11月6～15日(全4回) 参加人数:65人	○	講座について、前年度の実施状況を踏まえて内容の充実を図り実施した。
	市民センター	79 老壮大学	教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために各種講演会・講習会を行います。青梅老壮大学、調布ことぶき大学、霞老壮大学、梅郷老壮学園、小曾木老壮大学、東青梅老壮大学、河辺老壮大学	・(青梅C)(青梅老壮大学)教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために各種講座、学芸祭、研修視察等を開催した。延べ参加人数:755人 ・(長淵C)(調布ことぶき大学)講演会、芸能大会、日帰り研修等の行事を開催した。延べ参加人数:549人 ・(大門C)(霞老壮大学)講演会、日帰り見学会、修学旅行を開催した。延べ参加人数:1,078人 ・(梅郷C)(梅郷老壮学園)講演会、日帰り研修旅行を実施した。また、梅郷地区総合文化祭への出品、梅郷地区高齢者クラブ連合会の芸能大会へ参加した。延べ参加人数:543人 ・(小曾木C)(小曾木老壮大学)講座、講演会、日帰り研修等の行事を開催した。延べ参加人数:405人 ・(東青梅C)(東青梅老壮大学)教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために講演会・研修旅行等の事業を開催した。延べ参加人数:705人 ・(河辺C)(河辺老壮大学)各種講座、講演会等を開催した。延べ参加人数:561人	○	老壮大学の運営にも学生自ら参加することにより自主性が芽生え、また多方面にわたる講座を計画実施することにより、教養の向上や生きがいづくりに貢献している。
	福祉総務課	80 社会を明るくする運動	人々が互いに助け合い、希望を持って生きることのできる明るい社会を目指して、座談会やチラシの配布など啓発事業を行います。	青梅市推進委員会を開催し、年度内の取り組み内容を決定した。 おうめ健康まつりでティッシュと絆創膏の配布を行い、運動のPRを実施。強調月間の7月2日、市役所に集合し推進委員長のおいさつものち、保護司や地域の中学生による啓発活動を、JR青梅線の河辺駅、東青梅駅、青梅駅で実施。 また、各地域で保護司や青少年対策委員等の協力を得て、市内の市民センター等でミニ集会や座談会を開催し、啓発活動を実施した。市民プールや図書館においてもPR活動を実施した。	○	法務省主唱の全国で実施されている行事で、青梅市においても、教育委員会、西多摩地区保護司会青梅分区、青梅警察署、青梅防犯協会、青梅市社会福祉協議会、自治会連合会、教育関係機関など23団体で推進委員会を組織し、7月に降様々なイベントを行って、啓発活動を行うことができた。 特に、駅頭でのPR活動や、市民センター等でのミニ集会で多くの市民に事業の内容を周知できた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 共に生きるための学習機会の充実	高齢介護課	81 家庭介護DVDの貸出し	在宅の介護者やボランティアの方々の活動を支援するために、介護等のDVDを無料でお貸しします。	家庭介護のためのDVD等の貸し出しを行った。 利用者数 1人 利用本数 10本	△	利用者が少なく、またDVDの内容も古くなってきているため。
	高齢介護課	82 認知症サポーター養成講座	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する、認知症サポーターを養成するための講師を派遣します。また、認知症サポーターに対し、ステップアップ講座を行います。	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりを推進した。 平成30年度講座受講認知症サポーター数 合計970人	○	認知症サポーターを増やし、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりに取り組んだ。
	高齢介護課	83 高齢者クラブ健康づくりモデル事業	ウォーキング等を取り入れた健康づくりモデル事業を実施し、地域の高齢者の健康づくり活動への参加と、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行います。	全2回を3か所の高齢者クラブに、ウォーキング教室およびウォーキング実施前後の体力測定を実施 ・三田連合(沢井清涼会・二俣尾清涼会・御岳清涼会) 31人(述べ人数53人) ・柚木梅寿会 19人(述べ人数32人) ・梨の木むつみ会 34人(述べ人数60人) (3か所合計84人/述べ人数145人)	○	各高齢者クラブにて、継続したウォーキングが実践でき、健康づくりの大切さを再認識していただいた。
	高齢介護課	84 家族介護教室	高齢者を介護している家族等を対象として、介護方法や介護予防、介護者の健康づくり等の知識・技術を修得する教室を開催します。	青梅市の区域内に住所を有する高齢者を介護している家族および近隣の援助者等を対象として年6回開催 7/7「気を付けよう日常生活にひそむ落とし穴」21人 7/31「はじめまして！訪問診療・訪問看護です」11人 9/25「薬の基礎知識とかかりつけ薬局の上手な活用方法」11人 12/8「歩行と健康～歩いて心も体も元気に～」4人 1/22「認知症予防講座～健康でイキイキした暮らしを続けるために～」12人 1/26「高齢者の日常生活での注意点・生活不活発病予防、消費者被害予防の寸劇・健康寿命を延ばす為の歩行の効果」18人	○	介護している家族への支援として、委託事業者へ依頼し実施。参加者からは好評を得られた。
	障がい者福祉課	85 手話講習会事業	福祉に対する関心を高め、地域福祉を推進するため、手話の初・中・上級講習会を開催します。 初・中級講習会は、障害者団体等と協働で実施します。	青梅市聴覚者協会との協働事業によって入門、初級手話講習会を実施した。	○	入門手話講習会39名、初級手話講習会41名の受講者があり、おおむね順調であると判断した。
	障がい者福祉課	86 点字図書給付事業	視覚障がい者の方に、点字図書を給付し、その活動を支援します。	市のホームページ等で周知を行ったが、平成30年度は利用がなかった。	△	平成30年度は利用実績がなかったが、視覚障害者への支援のひとつとして、効果的な事業であると認識している。
	障がい者福祉課	87 身体障がい者自動車運転教習事業	身体障がい者の就労など社会参加の拡大を図るため、自動車運転教習費用の助成を行います。	身体障がい者の就労など社会参加の拡大を図るため、自動車運転教習費用の補助を行った。 利用者3人	○	支給実績としては利用者3人ではあるが、身体障害者の社会参加の拡大に効果的な事業であるため、おおむね順調であると判断した。
	障がい者福祉課	88 相談支援事業	市の窓口で、障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言を行うことで社会生活の自立に向けた支援をします。	設置場所 障がい者福祉課、青梅市障がい者サポートセンター、青梅市障害者就労支援センターで実施。 ・市役所障がい者福祉課 実利用人数 1,503件 ・障がい者サポートセンター 延べ相談件数 6,943件 ・障害者就労支援センター 6,193件	○	市の窓口等で、障害のある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言を行い支援ができた。
	障がい者福祉課	89 意思疎通支援事業	意思の疎通が困難な重度聴覚障がい者の方に対して、公共団体等が主催する行事などに手話通訳者・要約筆記者を派遣します。	意思の疎通が困難な重度聴覚障がい者の方に対して、公共団体等が主催する成人式、講演会などに手話通訳者・要約筆記者を派遣した。 障がい者福祉課派遣 3件	○	障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮のひとつとして重要な事業と認識している。
障がい者福祉課	90 青梅市障がい者サポートセンター事業	障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や支援を行い、障がいのある方の創作活動や生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進等を行います。また、障がいのある方やその家族、障がい者団体等が活動する場を提供し、障がいのある方の自立の促進を図ります。	条例・規則に定めた支援を実施した。 ・相談支援 延べ相談件数 6,943件 ・創作活動や生産活動 延べ参加人数 5,083人 ・施設貸出し 延べ利用人数 4,860人 ・生活支援(パソコン指導・療育指導) 延べ人数 316人	○	相談支援件数が増加しているが、これは、障害福祉サービスのサービス等利用計画の作成の影響と考える。 本事業により、障害のある方やその家族等への支援を行い、障害者の自立の促進を図れた。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 共に生きるための学習機会の充実	障がい者福祉課	91 中等度難聴児発達支援事業	身体障がい者手帳の交付対象とならない中等度難聴児に対して、補聴器の購入費用の一部を給付し、言語の習得等を促進させ健全な発達を支援します。	身体障害者手帳の交付対象とならない中等度難聴児に対して、補聴器の購入費用の一部を給付し、言語の習得等を促進させ健全な発達を支援した。 利用件数4件	○	本事業は、平成25年度からの事業で、手帳の交付対象とならない難聴児に対する支援であり、手帳取得に至らない中等度難聴児の発達支援を行うには効果的な支援制度と判断している。
	社会教育課	92 国際理解講座	1 世界に広がる教室 次代を担う青少年(小学4年生～高校生)のために、国際的な視野と教養が身につくよう支援します。(英会話と文化講座) 2 外国人日本語講座 日本に来て間もない外国人の日本語理解の手助けをします。(正しい日本語の学習「音声・文字・助詞」)日本語が話せない方には、日本語学習グループを紹介します。	・小学生講座 実施日 5月19日～3月2日(全20回) 内容 英会話講座、文化講座 参加人数 小学校4年生25人、小学校5年生41人、小学校6年生23人 計89人 ・中学・高校生講座 実施日 5月20日～3月3日(全20回) 内容 英会話講座、文化講座 参加人数 中学1年生18人、中学2年生2人、中学3年生2人、高校1年生1人 計32人 ・外国人日本語講座 実施日 5月16日～11月17日(全18回) 内容 正しい日本語の学習、音声、文字、助詞 参加人数 22人	○	合計で121名の世界に広がる教室の参加者を迎えて講座を実施した。今後とも多くの受講生に参加してもらえるよう広報していく必要がある。外国人日本語講座については、参加人数が芳しくない現状があるので、増加するよう周知していく。
	社会教育課	93 ともに生きるための教室・講座の企画運営	地域で助け合いと協力、ふれあいを支援する教室・講座を開催します。 高齢者の生きがい、男女平等、人権平和・国際理解、障がい者の学びの場を実現し、地域で助け合いと協力、ふれあいを支援する教室・講座を開催します。	・～新しい世界へ飛び出そう～人生のステージアップ講座(5人) ・国際理解講座公開講座(260人) 青梅市生涯学習推進市民会議企画講座 ・異文化体験「ウズベキスタン料理教室」(14人) ・英語で楽しむブータン料理(28人) ・英語で楽しむフィリピン料理(16人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 3講座 279人	○	多文化理解や男女平等、趣味を通じたコミュニティ形成などを目的に3講座を実施した。
	社会教育課	94 生涯学習まちづくり出前講座	市の施策や事業等をテーマに、市職員等が市民のところへ向いてお話しする出前講座を実施し、市民が自分達のまちについて学ぶ生涯学習の機会を提供します。	講座名「青梅の姉妹都市～ポツバルトについて～」以下72講座 18部署(健康課以下15課・青梅消防署・青梅警察署、東京都行政書士会多摩西部支部) 延べ受講者数 2,898人	○	各課、各部署の協力により、幅広いテーマで72講座開催した。
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	スポーツ推進課	95 各種体操教室	市民の健康・体力づくりを目的とした各種体操教室を総合体育館および健康センターで実施します。幼児、小学生、親子、勤労者、女性、中高齢者など、対象別の各種教室を企画・開催し、参加者にとって魅力のある教室の運営を図ります。	【当日参加制教室】 教室名：ホップステップ体操、いきいき体操、はつらつ体操、シェイプアップ体操、のびのび体操、男性のヘルシー体操、リフレッシュ体操、フレッシュアップ体操 会場：第2スポーツホール 延べ参加者数：15650人(384回開催) 【登録制教室】 教室名：親子コンタクト(ベビー・すくすく)、バドミントン、Jr.フットサル(幼児・児童)、レディースフットサル、パワーヨガ、骨盤調整ヨガ、ボディバランスストレッチ、ソフトエアロビクス、figure8、骨盤エクササイズ、リラクソヨガ、アクティブヨガ、体幹エクササイズ(初級・中級)、体操(幼児・児童) ZUMBAGOLD、ZUMBA、Jr.卓球(幼児・児童)、KIDSHIPPO P、骨盤エクササイズ土曜 会場：第1スポーツホール、第2スポーツホール、第1会議室、幼児室 延べ参加人数：8452人(890回開催)※手話教室は含まない	○	指定管理者の事業として実施し、多くの方に参加していただいた。
	スポーツ推進課	96 青梅マラソン大会	スポーツを通じてボランティアをする機会を提供します。 全国の市民ランナーと国内外の招待選手が青梅に集い、マラソンを通して選手と市民がスポーツ・文化交流を深めます。 30キロの部、10キロの部	実施日 2月17日 参加人数 16,669人 30キロの部 13,178人 10キロの部 3,491人 ジュニアロードレース 720人	○	第53回目の大会として、多くの参加者を迎え開催した。 また、10キロの部会場ステージを市民の発表の場とするなどスポーツイベントを活用し、発表の機会を提供した。
	スポーツ推進課	97 有酸素運動普及事業	気軽にできるウォーキングやノルディックウォーキング等の有酸素運動の教室を、ウォーキングモデルコース等を利用して開催し、市民の体力・健康の維持増進に寄与します。	多摩川流域魅力体験！謎解きウォークラリー参加人数 210人 護美拾い合戦～青梅宿の陣～ 参加人数 15人	○	青梅市、羽村市、福生市、あきる野市、昭島市、八王子市の連携事業の中で多摩川流域を歩くウォークラリーを開催した。 また、清掃リサイクル課と協力し、美化活動とスポーツを融合させたゴミ拾いイベントを実施し、既存のウォーキングマップを実施エリアとして活用し、有酸素運動の普及に努めた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	スポーツ推進課	98 スポーツ・レクリエーションフェスティバル	スポーツ・レクリエーション活動を全市的な規模で実践する場を提供することにより、市民一人一人の活動への参加意欲を喚起し、生涯スポーツを振興します。	実施日 10月8日(体育の日) 会場 総合体育館ほか体育施設 参加人数 3,019人	○	青梅市体育協会加盟団体が多様な種目を実施することで、参加者が増加してきている。また、平成29年度に引き続き、施設管理を行う指定管理者とも協力し、参加者のニーズに合わせた事業の実施に努めている。
	スポーツ推進課	99 市民体育大会	市民の体力づくりと技術の向上を図ることを目的として、青梅市体育協会に委託し、各種大会を実施します。	種目 30種目 参加人数 8,709人	○	広く市民に開かれた大会として実施している。だれでも参加が出来る大会を開催することで、市民体育大会への参加を目標とし、スポーツに取り組む機会を提供している。
	スポーツ推進課	100 奥多摩深谷駅伝競走大会	昭和11年の第1回大会以来、現在に至るまでたくさんのランナーが冬の奥多摩路を疾走する駅伝大会です。一般・大学・高校の部・・・44.8キロ(6区間)女子の部・・・11.1キロ(3区間)	実施日 12月2日 参加チーム数 255チーム	◎	80回記念大会として、制限時間の延長と、新たに「小学生の部」「中学生の部」「支会・自治会の部」を新設したことで参加チームも増え、沿道の応援も例年より盛り上がった大会となった。
	スポーツ推進課	101 屋内温水プール開放事業	市内にある民間温水プールを借り上げ、年間を通じた市民の健康、体力づくりの場として提供します。	実施日 毎週日曜日 47回開放 利用人数 大人1,330人 小人493人 合計 1,823人	○	昨年を超える利用者がおり、年間を通じた健康、体力づくりの場として機能している。
	高齢介護課	102 介護予防講演会	介護予防に関する基本的な知識の普及啓発のため講演会を開催します。	一般市民を対象とし、年2回開催。 ・8/2「いつまでも元気はつらつ～みんなで！楽しく！元気に！～」 講師：東京都健康長寿医療センター研究所東京都介護予防推進支援センター長 大淵修一氏 52人 ・11/20「健康寿命&認知症&終活～(生)老病死に備えた自己点検のすすめ～」 講師：元厚生労働省参事官 石黒秀喜氏 81人	○	アンケート結果では、2回共におおむね好評の結果を得られた。
	高齢介護課	103 自主グループ育成支援	高齢者が身近な地域で元気に自立した生活を続けるために、自主的に介護予防を目的とした運動などを行うグループ活動やそれを担うグループリーダーの育成を支援します。	「介護予防リーダー養成講座」 養成講座 全12回14人(述べ人数157人) 定例会 全6回46人(述べ人数201人) 委託事業者：医療法人社団 和風会 平成30年度末時点で市内21カ所で自主グループ活動中。	○	介護予防リーダー養成講座では、地域での自主活動に向けて知識の習得や意識づけができた。また、養成講座修了後の介護予防リーダーに対して定例会を実施し、講座内容の振り返りや情報交換を行い、継続支援を行うことができた。
	高齢介護課	104 機能訓練	健康づくりや閉じこもり予防を目的とし、健康チェックや軽体操、ミニ健康講座等集団での健康づくりを行います。	「歩き方講座」 全6回を年2回実施。 41人(述べ人数211人) 講師：いきる姿勢インストラクター加藤 直司氏 場所：高齢者センター	○	受講中から姿勢がよくなった等との効果がきかれた。アンケート結果では、正しい姿勢や歩き方、呼吸法を学び、意識が高まったなどの結果が得られ、おおむね好評であった。
	健康課	105 機能訓練		H29年3月に厚生労働省より機能訓練は廃止となり、H28年度から機能訓練事業の対象者がいないために、健康教育事業へ移行し実施した。	-	
	健康課	106 おうめ健康まつり	医師による健康相談、健康チェック、歯科相談、展示、体験等のコーナーや健康講演など、市民一人一人が楽しく家族ぐるみで健康づくりを学べる催しです。	第49回おうめ健康まつりを開催した。 青梅市三師会と市の共催で「家族ぐるみの健康づくり」をテーマに、三師会等による各種相談、市民参加型の各種コーナーの実施、青梅市三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)による講演会を実施した。 ・実施日：5月20日午前10時から午後2時 ・会場：青梅市役所(正面玄関、1階ロビー、2階会議室等) ・参加人数：延べ6,427人(6,302人)	○	各コーナーについては、昨年度参加者アンケートを踏まえ共催者である青梅市三師会等と実施内容の協議を行い、三師会等による各種相談、ヘルスチェック、「Myストレッチ」教室、転倒予防教室、梅っこ体操教室等市民参加型の各種コーナーの開設や青梅市三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)による健康に関する講演会を実施した。また、新規事業として肺年齢測定、体組成測定、献血等を実施し、健康づくり普及啓発の機会として健康に関する正しい知識や情報提供を行うことができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由	
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	健康課	107	健康教育	生活習慣病の予防等に関する教室を開催し、健康づくりや疾病の予防など市民の健康についての学びの機会とします。	生活習慣病の予防や健康づくり等に関する各種講座を開催した。 ・開催場所:健康センター、市役所など ・参加者数:5,321人(延べ人数)	○	開催の時期や内容、場所のなどを検討していくとともに、予防啓発に関する情報の周知拡大を図っていく。
	健康課	108	健康相談	日ごろ、健康について気になることなどを相談できる機会として、健康センター、沢井保健福祉センター、小曾木保健福祉センターで実施します。	・開催場所:健康センター、中央図書館、総合体育館、市役所、沢井、小曾木福祉センターなど ・利用者数:1,674人(延べ人数)	○	開催場所に応じて対象の健康レベルが異なることが把握できたため、新たな利用者のために相談事業の内容や開催場所を今後も検討していく。
	総合病院管理課	109	おうめ健康塾	当院の医師・看護師等が講師となり、疾病の原因、治療、予防等について話し、質問にもお答えします。年間6回程度開催します。	・第1回 平成30年4月14日「フレイルをご存知ですか? ~予防のための知識と運動~」41人参加 ・第2回 平成30年5月26日「CT(3D)、PET/CT、マンモグラフィ検査の画像について」50人参加 ・第3回 平成30年6月9日「認知症との付き合い方」74人参加 ・第4回 平成30年7月21日「がんと食事の話 ~予防と治療中の食事の工夫について~」40人参加 ・第5回 平成30年9月8日「がん検診のご存知ですか? ~がんは、早く見つけて治療をすれば怖くない病気です~」37人参加 ・第6回 平成30年10月13日「検査でわかる動脈硬化」58人参加 ・第7回 平成30年11月10日「病院の建て替え」36人参加 ・第8回 平成30年12月15日「狭心症と心筋梗塞 ~その胸痛、心臓からのSOS?~」113人参加 ・第9回 平成31年1月23日「おくすりの賢い使い方」29人参加 ・第10回 平成31年2月20日「脳卒中になったとき ~あなたと家族のそなえ~」96人参加 ・第11回 平成31年3月8日「スキンケアについて」57人参加	○	8月を除く年11回開催し、合計で631人、1回平均57人と多くの参加をいただいたが、昨年度の合計625人と比較し、微増であったため。
	スポーツ推進課	110	健やかに生きるための教室・講座の企画運営	市民が健康な生活を送れるよう支援する教室・講座を開催します。 1 短期スポーツ 気軽に楽しく誰にでもできるスポーツ教室を開催します。(青梅マラソンの走り方教室、少林寺拳法教室、ピラティス教室、ニュースポーツ教室等) 2 長期スポーツ教室 青少年の心身の健全育成を目的とした剣道・柔道教室を、年間を通して開催します。 3 ジュニアスポーツ教室 小学生のスポーツへの関心をより高め、各種スポーツの紹介、体験を通して自身の適性を知り、興味や親しみを持ってもらうことを目的として開催します。 4 アダプテッド・スポーツ教室(障がい者スポーツ教室)開催し、スポーツに親しむとともに障がいのある方とない方の交流を図ります。 5 各種健康関係教室 熱中症予防講座、スポーツ外傷と応急処置教室や介護予防教室などスポーツ活動中だけでなく日常生活でも役立つ教室を開催します。	・アダプテッド・スポーツ教室(旧障がい者スポーツ教室)、1回(71人) ・柔剣道スポーツ教室 柔道教室 延べ257教室(2,959人) 剣道教室 延べ457教室(5,509人) ・ジュニアスポーツ教室(各教室計4回ずつ実施) バスケットボール教室(308人) バドミントン教室(188人) 水泳教室(176人) ビーチボール教室(145人) テニス教室(167人) 新体操教室(119人) バレーボール教室(198人) 卓球教室(160人) ソフトテニス教室(173人) ・ラジオ体操in青梅(1,234人) ・青梅マラソンランニングクリニック(39人) ・ブラインドサッカー教室(70人) ・スポーツ×地域の魅力 カヌー体験プログラム(61人) ・その他のスポーツ教室 3教室、7回(75人) ※括弧内の人数は延べ参加人数	○	各種スポーツの教室や地域の特徴的なスポーツに関するカヌー体験などを通して、競技スポーツに関心を持っていない方へ様々なアプローチを行った。
	高齢介護課	111	健康課	青梅市介護予防オリジナル体操「梅っこ体操」の普及啓発を実施。 市民への出前講座7件 各種イベント等6件 その他介護予防講演会、介護予防教室など5件	熱中症予防講座については、単独の開催は実施していないが、健康課主催の各種健康講座の中で正しい知識の提供を行った。	○	各種イベント、講座などで「梅っこ体操」を実施し、普及に取り組んだ。次年度も引き続き、普及啓発に取り組む。
	社会教育課	113	健康課	・ピラティス~呼吸法と共に体幹を鍛える~(88人) 青梅市生涯学習推進市民会議企画講座 3講座 ・作業療法学生によるいきいき健康講座(86人) ・ピラティス+α調整筋力トレーニング(67人) ・リフレッシュ リズム体操~笑顔で楽しく動いてみよう~(55人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 4講座 296人	熱中症予防については、各講座等での注意喚起や広報、リーフレットによる周知を行い、正しい知識の普及啓発に努めた。	○	市民会議の企画講座を中心に老化予防や健康に関する運動講座を実施した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	秘書広報課から市民安全課へ移管	114 広聴活動	市政に関する要望、意見、提案等を寄せていただき、市民参画によるまちづくりを進めるために役立てます。	市長への手紙を市内の公共施設を中心に設置するとともに、要望書についても、随時受付を行った。 ・市長への手紙 157件 ・要望書 133件	○	市政に関する要望、意見等に対し、なるべく迅速に回答するよう努力している。 いただいた要望等は、今後の市政運営に役立てている。
	市民安全課	115 交通公園日曜映画教室	楽しみながら交通安全の知識が得られるように、幼児から親子を対象に交通安全の講話と映画上映を毎週日曜日に実施します。	参加人数:456人	○	毎週日曜日に、交通安全啓発ビデオを上映し、楽しみながら交通ルール、マナーについて、啓発することができた。
	市民安全課	116 交通公園交通安全教室	楽しみながら安全な歩行や自転車利用法、交通マナーが習得できるように、保育園児や幼稚園児、小学生、高齢者を対象に交通公園で随時実施します。	参加人数内訳 小学生:1,421人 高齢者:48人 幼稚園、保育園児:1,207人 その他:352人	○	青梅警察署を始めとする各種関係団体と協力し、市内の小学校3年生を対象とした自転車運転免許証交付事業を実施するとともに、幼稚園、保育園、希望校(3年生以外)を対象とした交通安全教室も随時実施し、交通ルール、マナーの啓発に努めた。 また、高齢者を始めとする大人を対象とした交通安全教室についても開催し、老若男女を問わず、交通安全意識の高揚を図ることができたため。
	市民安全課	117 交通安全講習会	青梅警察署および青梅交通安全協会と連携し、一般市民を対象に市内12か所の会場で、交通安全講話と交通事故防止を目的とした映画上映を行い、交通安全意識の高揚と事故防止を図ります。春・秋の交通安全運動に先がけて、各12日間実施します。	秋の交通安全講習会 8月25日～9月7日(8月26日、9月2日除く)12日間 参加人数:301人 春の交通安全講習会 3月2日～3月16日(3月3日、9日、10日除く)12日間 参加人数:265人 合計 参加人数:566人	○	一般市民を対象に春・秋の交通安全運動に先駆けて、市内12か所の会場で、交通安全に関する講話と交通事故防止を目的とした映画上映を行い、交通安全意識の高揚を図った。
	市民安全課	118 セーフティ教室(交通事故再現方式)	交通事故再現方式による自転車安全教育を中学校において行い、交通安全意識の高揚と事故防止を図ります。	泉中学校(5月18日) 参加生徒数:414人 第一中学校(5月23日) 参加生徒数:252人 吹上中学校(10月10日) 参加生徒数:158人 合計:824人	○	交通事故の衝撃や怖さを実感することにより、交通安全意識の高揚、自転車走行ルール・マナーの向上を図ることができた。
	市民安全課	119 専門相談事業	専門相談員による各種専門相談(法律相談・人権の上相談・行政相談・交通事故相談・登記相談)を実施します。	・法律相談 (相談内容) 土地家屋の賃貸借、相続、離婚、債権債務、損害賠償など (相談回数) 80回 (相談件数) 510件 (相談員) 弁護士 ・交通事故相談 (相談内容) 交通事故による損害賠償問題、示談および保険手続きなど (相談回数) 24回 (相談件数) 30件 (相談員) 弁護士 ・登記相談 (相談内容) 土地・家屋の不動産や法人登記および境界に関すること (相談回数) 12回 (相談件数) 51件 (相談員) 司法書士、土地家屋調査士 ・身の上相談 (相談内容) 家庭や身の上の悩み事、職場の差別やプライバシー侵害など (相談回数) 16回 (相談件数) 30件 (相談員) 人権擁護委員 ・行政相談 (相談内容) 国の行政機関や政令で定める法人の業務に対する苦情や要望など (相談回数) 14回 (相談件数) 8件 (相談員) 行政相談委員 ・相続遺言等暮らしの手続き相談 (相談内容) 相続に関する遺産分割協議書、遺言書等の書き方や手続きに関すること (相談回数) 12回 (相談件数) 45件 (相談員) 行政書士	○	専門相談員による各種専門相談を実施し、市民からの相談に対し、解決等に向けての助言を行った。
	市民安全課	120 パネル展等	消費者意識の高揚と被害防止を図るため、パネル展示やパンフレットの配布を行い、知識を広げます。22か所	市役所エントランスロビー、市民センター玄関ホール、市内の高等学校や専門学校等において、悪質商法の手口等を紹介したパネル展示を延べ18回実施したほか、啓発冊子の配布を西東京農業協同組合の本支店7か所に依頼した。	○	市内にある高等学校、専門学校や企業等の協力により、市民センターをはじめ市内各所でパネル展示等を行ったことにより、悪質商法をはじめとする消費者トラブルの事例と対処法についての啓発を広く行うことができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(5)暮らしやすい環境のための学習機会の充実	市民安全課	121 消費者相談	契約上のトラブル、欠陥商品による被害を受けた場合などの相談を受けることで、市民に消費生活上の知識を広げていただけます。週5日(開庁日全日)	消費者相談は、開庁日に実施し、毎月第2・第4火曜日については、午後6時まで相談時間を延長した。 平成30年度相談件数:1,098件	○	消費生活相談員が1~2人体制で電話および来庁での相談に対応し、消費者トラブルについて助言やあっせん解決を行った。
	市民安全課	122 消費者研修会・セミナー	市民を対象として、日常の生活に役立つ身近なテーマを取り上げ、開催します。年20講座	生活知識に関して24講座1,137人、環境・資源に関して1講座91人、食に関して7講座302人、計32講座開催し1,530人が受講した。	○	高齢者を対象とした悪質商法防止啓発をはじめ、生活の中で身近な消費者に関する題材等をテーマに講座を行い、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の参加、受講があり、啓発ができた。
	市民安全課	123 市民のくらし展	市民生活の安定とコミュニティの大切さを啓発するため実施します。年1回・参加3団体	11月3日・4日の2日間開催した。 参加団体2団体、延べ来場者数 15,000人 市内の高等学校の生徒がボランティア参加した。	○	青梅産業観光まつりにあわせて行ったため、多くの来場者に食品ロス等のくらしに関する情報を発信することができた。また、市内に在学する高校生がボランティアとして参加し、悪質商法被害防止啓発等を行い、市民とともに消費者問題について学ぶ機会を設けることができた。
	環境政策課	124 親水事業の拡充	市民団体等と協働で、事業体体験型や学習型の親水事業を充実します。	①がんばれ!あゆっ子2018「稚鮎の放流と生態系調査」(NPO法人奥多摩川友愛会)(子ども29人、保護者25人) ②じゃぶじゃぶ川であそんじゃおー(霞川くらしの楽校)(子ども30人、保護者19人) ③ワクワク!ドキドキ!!水辺の探検隊~達人と一緒に楽しく安全な川遊び教室~(青梅・多摩川水辺のフォーラム)(子ども50人、保護者35人) ④いかにで遊ぼう in 霞川Part10(霞川くらしの楽校)(子ども10人、保護者7人) ⑤第10回炭焼き体験と水辺の交流会(美しい多摩川フォーラム)(子ども25人、保護者14人) ⑥多摩川まるごと遊び塾 ~水辺はぼくらのワンダーランド~(青梅・多摩川水辺のフォーラム)(台風の影響で中止) ⑦お魚釣りに挑戦しよう(霞川くらしの楽校)(子ども15人、保護者10人) ⑧親子魚釣り体験教室2018「釣ったらどうする?」(NPO法人奥多摩川友愛会)(子ども37人、保護者42人)	○	各事業とも、当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を眩るものがあり、市においても物品準備や周知活動、当日の事業運営への協力をを行い、それらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらうことができた。全体として川と親しむ機会づくりにより一定の効果があつたと考えられる。
	環境政策課から公園緑地課へ移管	125 市民環境講座	市民の環境への関心を高め、環境施策を推進します。	「青梅の森」市民ボランティア講座を実施していたが、平成26年度より市民団体の自主講座として実施している。	-	
	環境政策課	126 環境月間	環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするため、各種の啓発を行います。	①6月1日号広報おうめ周知 ②6月の環境月間中の「おうめ環境フェスタ2018」を おうめ環境市民会議と協働で実施した。 ・市民環境活動展示(市役所ロビー) ・中央図書館環境図書コーナー ・環境体験学習イベント(420人) ・フリーマーケット(21組) ・野鳥観察会(39人) ・講演会「子どもも大人も森林(もり)あそび~苔玉づくりと自然の中で幼児教育~」(23人) ・講演会「家庭でできる省エネのコツ~かしく暮らしすてきにエコ~」(27人) ・講演会「カエル池プロジェクト「青梅市内に生息する両生類と市民による保全活動」(40人) ・基調講演「森林・里山から学び生き方を考える中高生」(24人) ③3月15日おうめ環境ニュースを発行	○	市内の団体、企業、教育機関等の各主体の環境活動を集め、市民に向けてアピールする環境月間に行う「おうめ環境フェスタ」は、啓発効果が高く、環境について考える場を提供できる意義ある事業と考えられる。 また「おうめ環境ニュース」についても市民団体と協働で編集を行うことで、市民目線の発行物を作成できたと考えられる。
	清掃リサイクル課	127 ごみ処理施設見学会	市民のリサイクル意識の高揚と啓発のため、リサイクル製品再生工場等の施設見学会を実施します。	・9月12日、東京ペットボトルリサイクル(株)、東京都環境公社(埋立処分場) 19人 ・12月5日、西多摩衛生組合、つつる温泉、東京たま広域資源循環組合の二ツ塚処分場およびエコセメント化施設 40人	○	市民がエコセメント化施設等を見学し、リサイクル意識の高揚が図れた。
	清掃リサイクル課	128 市内一斉美化デー	ごみ減量の啓発および地域の環境美化向上のため、環境美化委員の協力により各地域の美化活動を行います。年2回	市内一斉美化デーを、5月13日(1,201人参加)と12月9日(1,131人参加)の2回実施した。	◎	環境美化委員連合会を中心に年2回、市内全域で多くの市民の協力により美化活動が行われると同時に、環境美化の意識の高揚が図れた。
	清掃リサイクル課	129 小学生ごみ減量化・資源リサイクル推進ポスターコンクール	社会問題になっているごみ問題について、その減量化や資源化の大切さを個々に考えてもらうよう、啓発を行います。	ポスター部門は小学校9校から26点の応募、キャッチフレーズ部門は小学校10校から115点の応募があり、10月2日に審査会、10月28日に表彰式を行った。入賞作品は市役所1階ロビーに展示し、平成31年度ごみ収集カレンダーの表紙にも使用した。	○	多くの作品が応募されたことにより、ごみの減量化や資源化の啓発が図れるとともに、入賞作品をごみ収集カレンダーに掲載し、ごみ減量などの啓発を行った。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	清掃リサイクル課	130 ごみ減量講座	資源循環型社会の目的理解と、ごみ減量を目指した学習を通して、ごみ問題についての啓発を行います。	ごみ減量をテーマに、ごみ減量講演会(1回)出前講座(7回)等を行い、ごみ減量の意識の向上を図った。	◎	ごみ減量講演会(100人)、出前講座(400人)等に多くの市民が参加し、ごみ減量等の意識の向上が図れた。
	農林課	131 野鳥講座	野鳥についての講義や観察を通じて、森林や自然環境保護の大切さを学びます。	講座内容が、趣味的要素が高く、なおかつ、庁内部署において同一団体講師による類似内容の講座が実施されるようになり、趣旨や内容の再検討、講師依頼先の検討、事業効果への疑問などの点から事業全体の見直しが検討されてきたため、平成28年度をもって事業を終了した。	—	
	農林課	132 協働木育講座「林業化仕事見学ツアー」	子どものころから木を身近に使っていくことで、人と森や木との関わりの大切さを考えられる豊かな心を育てる木育の推進事業を実施	未実施	×	講師の日程調整がつかず実施出来ず。
	社会教育課	133 暮らしやすい環境のための教室・講座の企画	日常生活や環境を考え、暮らしに役立つ工夫やヒントを得る機会としての教室・講座を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度農業・食育体験教室(324人) 子ども食育教室～農業体験と手づくりアイスクリーム～(53人) 新生涯学習施設(仮称)管理運営計画検討ワークショップ(52人) 市民センター共催事業 <ul style="list-style-type: none"> 東京2020オリンピック・パラリンピックと青梅の文化(67人) 新町ウォーク2講座(43人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 計 10講座 延べ参加人数 1,093人	○	暮らしやすい環境のための教室・講座として、10講座を実施し、2020年の東京五輪を見据えた事業や、青梅まちづくり工房の充実化などに取り組んだ。

3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 地域コミュニティ活動への支援	防災課	134 総合防災訓練	大地震による震災を想定した各種訓練のほか、避難訓練、初期消火訓練など住民参加型の訓練も実施し、防災意識の高揚を図り、防災知識や体験を深め、助け合い、協力し合う自主防災まちづくりを目指します。	市および関係防災機関、市民等が一体となって防災訓練を行うことにより、機関相互の協力体制の緊密化と防災計画の運用習熟化を図り、併せて市民の防災意識を高めることを目的に訓練を実施した。また、「防災ノート～災害と安全～」を活用した、親子防災体験として、河辺小、若草小の児童に参加の周知を図った。 実施日 8月26日 午前8時から10時 会場 市立河辺小学校校庭 参加機関 (1)青梅市 (2)防災関係機関：青梅警察署、青梅消防署ほか26機関 (3)協力団体等：地元自治会、青梅LPG協会、青梅アマチュア無線クラブ、災害時支援ボランティア、泉中学校、霞台中学校ほか16機関 参加人数 823人	○	防災関係機関、協力団体、市民等、多くの参加者があり、煙体験、応急救護訓練、初期消火訓練、応急給水訓練など、住民参加型の訓練を実施により、市民の防災意識の高揚を図ることができた。
	防災課	135 防災ハンドブックの作成・配布	市民への防災知識の普及および啓発のため、防災ハンドブックを作成し、配布します。市民の自助・共助の精神を養い、災害に対応できるよう支援します。	平成27年3月に作成・配布した市民防災ハンドブックの更新を検討した。 また、青梅市へ転入した方に対し、引き続き、市民課等で配布を行った。	○	防災ハンドブックの配布を通して、自助・共助についての理解に努めることができた。
	市民活動推進課	136 市民活動災害補償制度	市民活動団体等が、活動中に不測の事故により、参加者や第三者に損害を与え、法律上の損害賠償責任を負うことになった場合または参加者が負傷等された場合に保険で補償する制度を実施します。	・市民活動災害補償制度にもとづき、保険請求に係る事務手続きを行った。(市民活動推進係) 受付件数 28件 傷害補償 1件 賠償責任補償 1件 合計 29件	○	自治会をはじめNPO団体などの市民活動団体の活動に関して、その活動が安全、安心して行えるように市が保険に加入し、ホームページや自治会へ配布した自治会ハンドブックに掲載、およびボランティア団体連絡会等で周知して制度について認知が得られ活用されているため。
	市民センター	137 自主学習グループ支援	自主グループが学習活動を継続できるよう、活動場所や資料作成のための印刷機などを提供するほか、日頃の活動成果の発表の場として、市民センター文化祭などを開催します。	・自主グループの活動場所として、会場の貸出し、印刷機の貸出を行った。また、活動状況を発信する掲示場所の提供をした。 自主活動グループと地域住民とで、日頃の活動発表の場として市民センター文化祭を実行委員会とともに開催した。 ・青梅市民センター文化祭 11月24～25日参加者数：650名 ・長淵市民地区文化祭 11月10～11日 参加人数：1,231人 ・大門市民センター文化展 11月17～18日 参加人数：2,930人 ・梅郷地区総合文化祭 11月11日 参加人数：508人 ・三田地区総合文化祭 11月11日 参加人数：858人 ・小曾木地区文化祭 11月10～11日 参加人数：631人 ・成木地区文化祭 11月10～11日 参加人数：592人 ・東青梅市民センターコミュニティ文化祭 10月27～28日 参加人数：1,117人 ・新町末広町文化祭 11月10～11日 来場者677人 ・河辺市民センター文化祭 10月20～21日 参加人数：1,403人 ・今井市民センター文化展・ふるさと祭り 11月3～4日 参加人数：2,765人	○	市民センターは地域の自主グループを中心とした各種団体の活動拠点としての場所の提供などの役割を果たすとともに、発表の場および地域交流の場として文化祭を開催している。 自主グループの学習活動に対し、可能な限り施設等の提供ができた。 また、文化祭においても多くの観覧者の参加を得、一定程度の効果があった。
	市民センター	138 支会、体育振興会、自主防災地区委員会、高齢者クラブ等各地域団体の支援	地域活動がスムーズに行われるよう、地域に密着した施設として、会場や備品・用具の提供などにより、地域活動が発展するよう応援します。 地区運動会、各種スポーツ大会、講演会、研修旅行、総会・役員会など	・地域活動が円滑に行われるよう、支会、自主防災組織等各種団体の事務局として、また地域に密着した施設として、会議等活動の支援および会場、備品、用具の提供などの面で地域活動が発展できるよう支援した。 ・地区運動会等の地域行事および各団体の総会、役員会開催のほか、高齢者団体等の地域活動を積極的に支援した。(主な地域活動) 視察研修、地区運動会、ビーチボール大会、地区防災訓練、防犯・環境巡回/パトロール、盆踊りほか。 (東青梅C)地区運動会、地区防災訓練に中学生のボランティアによる参加を求め、地域との連携を支援した。	○	さまざまな地域団体の事業の支援を行うとともに、支会の事務局として地区運動会、支会盆踊り大会、ソフトボール大会など地域行事の支援を積極的に行っている。 各種団体の事務局として、地域団体活動を支援するとともに、施設等の提供も行い、一定の成果を上げることができた。 中学生の社会参加を図るとともに、新たな視点での地域活動を支援することができた。
スポーツ推進課	139 青梅型地域スポーツクラブ	「本市の自然環境をいかしたスポーツの推進」を図り、スポーツを通じた“青梅らしい”スポーツの機会を拡充します。青梅型スポーツクラブは、スポーツだけにとらわれず文化的側面等もふまえた教室・イベントを展開し、青梅の魅力に触れる機会を増やします。 例 青梅の森において、ノルディックウォーキングをつかった自然(森)の観察会など	取組実績なし	△	地域スポーツクラブの運営の都合上、現状では安定的な事業実施が難しい。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 地域コミュニティ活動への支援	スポーツ推進課	140 地区市民運動会等支援	青梅市自治会連合会の各支会、地区体育振興会、三団地連絡協議会等に対し、地区市民運動会等交付金を交付し、地区体育の振興とコミュニティの醸成を図ります。	交付団体数:9団体 交付金額:13,778,000円 延べ参加者数10,490人 ※要綱にもとづき、5月と9月に交付	○	各地域で運動会やスポーツ大会などの開催にかかる経費に支援することができ、事業の目的を果たすことができた。 今後、自治会・支会が行うスポーツ・レクリエーション活動を交付対象にするなど、活用の自由度を広げる検討もしていきたい。
	清掃リサイクル課	141 環境美化大会	ごみ減量を中心に、市の環境衛生美化推進のため、環境衛生・美化善行者、団体等への表彰と講演会を行い、地域における市民活動を支援します。	環境美化委員をはじめ、環境衛生・美化善行者、優良団体等の表彰を行い、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」と題した講演会を実施した。	○	美化活動およびごみ減量推進にご尽力いただいた市民および団体を表彰し、地域における市民活動を支援した。
	清掃リサイクル課	142 資源回収の奨励	自治会、子ども会等の地域活動の一環として、資源のリサイクルの必要性を認識し、リサイクルの促進に取り込み、ごみ減量を図ります。	143団体が実施。 資源回収量は3,610,565kg。 報償金40,554,397円、特別報償金3,625,805円を交付した。 報償金について、雑誌・雑がみ、紙パックは10円→13円、ダンボール、繊維類は9円→11円と単価改定を行った。	◎	多くの団体が資源回収に取り組んだことで、ごみの減量や資源の有効利用の推進、地域コミュニティづくりが図れるとともに、行政回収経費を削減することができた。
	社会教育課	143 社会教育関係団体補助	市内の社会教育関係団体に補助を出し、その活動を支援します。	平成28年度をもって補助制度廃止。	-	廃止となり、実施していないため。
	文化課から社会教育課へ移管	144 総合文化祭	青梅市文化団体連盟との共催により、市民の日ごろの学習成果発表の場として、各参加団体の舞台発表や作品展示等の総合文化祭を開催します。	総合文化祭開催期間 期間10月7日～11月28日 参加団体 21団体 参加者数 8,206人(観覧者含む)	○	文化団体連盟に加盟している、合唱連盟、三曲連盟、日本舞踊連盟、吟詠連盟、華道会、陶芸連盟、盆栽協会、書道連盟などの団体が市内外各会場で発表会や展覧会を開催した。休日に会場がとれず、2団体が平日開催になったため、参加者数・観覧者数は前年に比べ減少した。
	吹上中学校	145 落ち葉掃き等ふれあい活動	・学校周辺の落ち葉やゴミの回収、学校・地域の美化活動に努めます。 ・活動を通して身近な環境について考える機会とします。 ・保護者、地域の人々と活動を共にすることにより地域の人々とのふれあいを深めます。毎年12月実施	若林博司氏を講師に招き、「現代に生きる昔の歴史～平家と源氏にまつわる話し～」のテーマで講演をいただいた。講演後学校周辺の落ち葉掃きを学校と地域が一緒になって実施し、実施後にはPTAの保護者が作った豚汁を配布した。 実施日12月22日 参加人数 300人	○	例年、豚汁に使っている野菜は、落ち葉掃きの際に集めたものを堆肥にして使用し生産されたものを農家から頂いたもので、地域環境の学びだけではなく、地域連携にも役立っている。
(2) 地域人材の育成と活用	商工観光課	146 合同企業説明会in青梅	『地学地就』(地元で学んで地元で就職する。)をテーマに、多摩地域の学生と、新卒採用する企業との出会いの場を提供します。	未実施	×	市内に大学が無くなったこと、近年の売り手市場により、新卒の参加者が著しく減少傾向にある。地学地就を前面に出した事業の実施は現状では難しく、平成28年度から開催を見合わせている。 事業内容、周知方法の検討を継続し、平成30年度も引き続き開催を見送ることとした。
	防災課	147 防災リーダーの育成	自主防災組織の主体的な活動の要となる防災リーダーについて、計画的な育成を図ります。	・自主防災組織の強化および防災リーダーの育成を図るため、防災士の資格取得にかかる経費を8組織に交付した。 ・防災リーダーの育成を目的とした「防災リーダー講習会」を実施し、防災士16名や自主防災組織に関わる方等の育成を図った。 1 実施日時:3月17日 午前9時30分から正午まで 2 参加者:51名 3 講習内容:東京消防庁VR防災体験車体験、青梅消防署まちかど防災車体験、応急救護訓練、救出救助訓練	○	・市内11の自主防災組織のうち、8組織で防災士資格を取得し、平成26年度からの5年間で43名が防災士資格を取得することができたため。 ・防災リーダー講習会に防災士のほか市内各自主防災組織から多数の参加があり、防災リーダーの育成を図ることができた。
	市民センター	148 子ども会ジュニアリーダー講習会	子ども会の最上級生となる小学校6年生を対象に、子ども会リーダーのあり方や行事計画の立て方、ゲーム指導などの講習会を行い、下級生の面倒を見ながら、子ども会活動ができるようになります。	・(長淵C)地域PTAの協力のもと、地区青少年委員を講師にジュニアリーダー講習会を開催した。6月29日 参加人数:52人 ・(小曾木C・成木C)青少対と協力してジュニアキャンプ(1泊)やスイカ割大会&和紙染め体験などを実施し、子どもたちが主体となって下級生の面倒を見ながら、楽しく子どもが交流できるようにした。7月21～22日 延べ参加人数:125人 ・(東青梅)青少年委員を講師として、地区内の主に小学校5・6年生を対象に、「トレジャーハンティングー第八支会マイスターに挑戦!!」を実施した。5月20日 参加人数:72人 ・(新町C)青少年委員を講師として、ジュニアリーダー講習会「ぶちっとクリスマス!」を実施した。12月16日 参加人数26人	○	青少年の育成の支援の一つとして、地域内のジュニアリーダーの養成を支援し、地域の青少年の健全育成を図る取り組みを支援している。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 地域人材の育成と活用	市民センター	149 子ども会育成指導者講習会	子ども会育成会役員などを対象に、子ども会活動のあり方や運営のポイント、レクリエーションのポイント等について研修会を行い、地域子ども会活動の活性化を図ります。	・(東青梅) ジュニアリーダー講習会に子ども会育成会役員等も参加し、地域の子供会活動の活性化を図った。 5月20日 参加人数:72人	○	青少年の育成の支援の一つとして、地域内のジュニアリーダーの養成を支援し、地域の青少年の健全育成を図る取り組みを支援している。育成会役員などの大人が子供たちと一緒に体験、講習を受ける中で、育成指導者としてのあり方を学んだ。
	市民センター	150 地域の特性を生かした事業	各市民センターにおいて、その地域の特性を生かした講座・教室などを実施します。	各市民センターにおいて、市民センター利用サークルとの共催で、各種趣味・体験講座等を実施した。 ・(青梅C)「教科書では習わない? おもしろい英語の世界」4月20日・27日 参加人数:15名、「はじめてのフラダンス」6月8日・15日 参加人数:28名、「ふしぎな楽器 尺八のなぞ! ? II」11月24日 参加人数:40名、「尺八は54cmくらいなのぞの笛!? ~青梅の400年が動き出す! ~」1月19日 参加人数:16名、「東京2020オリンピック・パラリンピックと青梅の文化」10月25日・30日 参加人数:67人 ・(長淵C)「子供たちのお話会」4月14日~3月9日 参加人数:247人、「お話し会夏休み特別企画」8月4日 参加人数:10人、夏休み親子手打ちうどん教室8月19日 参加人数10人 ・(大門C)「庭づくり教室」6月19日、11月7日 参加人数27人、「クリスマスリースづくり教室」11月30日 参加人数:16人、「苔玉作り教室」2月21日 参加人数:12人、「そば打ち教室」12月14日 参加人数:12人、「地域散歩」3月23日 参加人数:11人 ・(梅郷C)「梅郷ホテルウォッチング」6月22日 参加人数:29人 「ふるさと探訪『旧御岳参道を歩く』」11月17日 参加人数:11人 ・(沢井C)「らくらく健康体操教室」通年 参加人数:891人 ・「野生きのこの観察会」8月19日 参加人数:6人、「日出山ハイキング教室」11月30日 参加人数:15人 ・(小曾木C)「手打ちうどん教室」7月6日 参加人数:15人、「手打ちそば教室」12月7日 参加人数:10人 ・(成木C)「ハイキング教室」11月16日 参加人数:14人、各種料理教室(子ども料理、栗の渋皮煮作り、ゆずジャム作り、蒟蒻作り、味噌作り、親子料理)合計参加人数:111人 ・(東青梅C)センター利用団体や地元の方を講師とし、親子のふれあいや地域住民の趣味づくりを図る教室を実施した。合計参加人数:99人、当地区の防災士や自治会長を講師として、地域の特性に合った防災対策を学ぶ講習会を実施した。 ・(新町C)「うどん作り体験教室」8月11日 参加人数:23人、「そば打ち体験教室」12月8日 参加人数:18人 ・(河辺C)「のびのび健康体操教室」通年 参加人数:1,018人 ・(今井C)「はじめての絵手紙教室」10月13日 参加人数:10人、「『もったいない』を減らそう! 使いきり料理教室」3月17日 参加人数:13人	○	地域の魅力を再発見する良い機会となり、参加者の感想からも満足度の高さが伺えたため。参加者が実体験することにより、地域の歴史の移り変わりなどを身近に感じる事ができた。生涯学習の拠点として、地域を知っていただく良い機会となった。参加者からのアンケート結果からも、評判が良く、所期の目的は果たせたものと評価する。
	スポーツ推進課	151 スポーツ推進委員研修	スポーツ推進委員の資質向上を図るため、各種研修会を実施するとともに、東京都スポーツ推進委員協議会等が主催する研修への参加を促します。	ニュースポーツ、綱引き、障がい者スポーツ等の研修会に参加した。 回数 6回 延べ参加人数 82人 東京都スポーツ推進委員協議会等の研修会に参加した。 回数 4回 延べ参加人数 26人	○	地域のスポーツ推進に関して、指導的な立場にあるスポーツ推進委員の資質向上のため、研修会等へ積極的な参加をしている。今後の継続性について、委員の選出に当たり後任者探しが困難になっている現状があり、スポーツ推進委員の選出方法等に関して今後検討が必要。
	高齢介護課	152 シルバーマスター制度	優れた技能、知識、経験等を有する高齢者をシルバーマスターとして認定・登録し、市民の学習活動の講師や指導者として推薦します。	マイスター認定者 22名 平成30年度認定者 3名 活動内容: 司会進行、うどん・そば打ち指導、社交ダンス指導、ジェットエンジンの説明、演奏活動(アコーディオン、ウクレレ、二胡)、和紙ちぎり絵教室、談話と水墨画教室、草木染、パソコン講習、ハワイアンキルト展示、華道指導、着物教室、人力車巡行、飛行機の談話・郷土の昔話、植樹活動等)	○	平成30年度はシルバーマイスター3名を認定したことにより、学習活動の講師や指導者として活躍できるマイスターが増えた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
地域人材の育成と活用	商工観光課	153 吹上しょうぶ公園・梅の公園ボランティアガイド	花しょうぶまつり・梅まつりの期間中に、市民によるボランティアの協力を得て、園内の案内をしていただくとともに、自然に親しみ、人とのふれあいの場を提供するため、ガイドを募集・講習会を行います。	・吹上花しょうぶまつり(平成30年5月25日～6月24日) しょうぶ公園ガイドボランティア (1)講習会の実施 しょうぶ公園ガイドボランティア講習会(2回実施) 5月16、17日「花しょうぶ講習会」 (2)新規募集 しょうぶ公園ガイドボランティアの新規募集を行い、2人の応募があった。平成30年4月6日、4月26日、5月11日、7月13日に講習会を実施。 ・吉野梅郷梅まつり(平成31年3月9日、10日、16日、17日) (1)梅の公園ガイドボランティア 打合せ実施 11月21日「梅まつりについて、梅樹植栽計画について」 (2)講習会の実施 2月27日梅樹について 3月5日梅の公園の梅樹について、現状確認	○	しょうぶ公園ガイドボランティアについては、新規募集・講習会の実施ができた。また、しょうぶまつり期間中には、園内の案内をしていただいた。しかし梅の公園ガイドボランティアについては、休止していたため。 梅のガイドボランティアについては、30年度より活動を再開し、講習会の実施、梅まつり期間中の園内説明を実施した。
	農林課	154 青梅市森林ボランティア育成講座	初心者・未経験者を対象に、下草刈り、枝打ち、間伐などの森林施業に必要な知識や技術習得の講義・実技指導を行い、森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成・組織化を図ります。	平成30年度は、第9期の1年目として、基礎的な内容を中心に実施した。 第1回 6月2日 座学と周辺山林視察 12人 第2回 9月8日 間伐 10人 第3回 10月13日 木材市場、製材所等視察 12人 第4回 12月8日 竹林間伐、炭焼き 8人 第5回 1月12日 枝打ち 11人 第6回 3月9日 植林 9人 延べ参加人数 62人(青梅市民)	○	毎回講座終了前に受講者に作業日誌を記入していただいているが、ほとんどの受講者から充実した内容であった旨の記入があり、一定の成果があったと考えられる。
	公園緑地課	155 緑地管理ボランティア	緑地管理ボランティアを対象とした講習会を開催し、技術や知識を高め、永山公園内緑地を良好な環境に保つボランティアとしての資質の向上を図ります。	実施日 毎月第3土曜日(8月除く)に実施(計7回、天候等による中止4回) 場所 永山公園内ボランティア管理緑地 延べ参加人数 69人 内容 下草刈りおよび支障木伐採等	○	永山公園内ボランティア管理緑地の管理作業を1年を通して実施したことにより、ハイキングコースからの景観や解放的な空間がハイカーに提供できた。 また、実施した成果が目当たりに確認できるため、ボランティアの方に充実感を味わっていただけたものと考えている。
	社会教育課	156 青少年リーダー育成研修会事業	小学5年生から高校3年生までを対象に、異年齢集団による団体活動を通じて、自主性や社会性を養い、リーダーとしての資質の向上を図ります。	6月17日～8月26日 全7回 市役所、国立赤城青少年交流の家ほか 延べ参加人数 278人	○	全7回の研修会で、班活動や視覚障がい体験、プロジェクトアドベンチャー等の活動を実施し、仲間との信頼関係を築くことや、自主性・社会性の養育を図った。
	社会教育課	157 講師・指導者およびボランティア協力者・協力団体人材登録制度	地域の人材を発掘し、身に付けた知識・技術などを広げていくため、人材登録制度を実施し、地域の教育力の向上を図ります。活用を促進するため、ガイドブックを発行します。	教育委員会ホームページにて情報提供した。 個人 文化系 51人 体育系 12人 団体 文化系 2団体	○	文化系が微増、体育系は横ばいとなった。今後も広報おうめや生涯学習だよりを活用し、広く周知を図る。
	文化課から社会教育課へ移管	158 芸術文化奨励賞	青梅市の芸術文化の発展を願って、地域で活動されている芸術家の方を発掘し、表彰します。	書道 石川和俊 第70回毎日書道展「毎日賞」受賞 書道 阪田莉音 第61回JA共済全国小・中学生書道コンクール小学生低学年半紙の部「文部科学大臣賞」受賞 書道 河口歩幸 第41回全国学生書写書道展公募の部「文部科学大臣賞」受賞 書道 高橋華楓 第41回全国学生書写書道展席書の部「文部科学大臣賞」受賞 書道 坂野萌芽 第41回全国学生書写書道展席書の部「文部科学大臣賞」受賞 書道 伊藤美佳 第54回全日本書初め大展開覧会公募の部「日本武道館大賞」受賞 音楽 高橋花 第35回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 弦楽器部門中学生の部に出場 音楽 尾崎空太・一太 第39回全日本リコーダーコンテスト「銀賞」受賞	○	学校や文化団体へ、芸術文化奨励賞の周知を図るとともに、広報おうめや市ホームページ等を通じ、広く周知することができた。また、新聞のデータベースを活用し、各大会の受賞状況を調査した。それによって、芸術・文化活動に業績を上げた対象者をもれなくリストアップできた。基金をもとに、受賞者には記念品を交付した。
	社会教育課(図書館)	159 おはなし学習会	おはなし(ストーリーテリング)の初心者で、市内でおはなしの活動をされたい方、または行っている方を対象に、実践を含めた勉強会を実施します。	・おはなし学習会(初級) 5月7日～1月10日 8回 延べ参加人数 57人 ・おはなしドーナツ(経験者) 4月18日～3月15日 23回 延べ参加人数 331人	○	おはなし学習会(初級)を8回開催し、延べ57人の参加者があった。また、おはなし経験者が増えたため、おはなしドーナツ(経験者)講座を23回に増やし、学習会の充実を図った。今後も開催回数や内容の充実を図ることが課題である。
	社会教育課(図書館)	160 絵本のべんきょう会	市内でおはなしの活動をされたい方、または行っている方を対象に、絵本の読み聞かせの実践を含めた勉強会を実施します。	・絵本のべんきょう会 5月25日～3月8日 6回 延べ参加人数 100人 ・絵本の読み聞かせ学習会 5月24日～11月15日 6回 延べ参加人数40人	○	絵本の読み聞かせの勉強会を2事業、計12回開催し、延べ140人の参加者があった。今後も開催回数や内容の充実を図ることが課題である。

4 学習情報提供と学習相談の充実

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
（1） 学習情報提供の充実	秘書広報課	161 広報おうちの発行	行政情報を中心に、制度や催しのお知らせのほか、市民や市内の出来事などの紹介や市民グループからの情報なども提供します。月2回発行	毎月1日・15日を発行日として24回発行した。行政情報等を掲載するほか、写真等の市民公募を行い、1月1日号、3月15日号に掲載した。	○	行政情報については、写真やAR動画を掲載し、情報発信の充実に努めた。写真等の市民公募については、市民の関心や意欲が高まるよう、より多くの作品を掲載した。
	企画政策課から市民活動推進課へ移管	162 男女平等情報紙	市民の関心と理解を深めるため、男女平等情報紙「よつばの手紙」を年2回発行します。	市民等への男女平等参画の意識啓発のため、男女平等情報紙「よつばの手紙」を10月と3月にそれぞれ31,000部発行し、自治会加入世帯および公共施設等へ配布した。	○	情報紙は、市民が参画する編集委員会が企画・編集しており、毎号、記事内容、装丁などの更なる充実にに向けて話し合いながら取り組んでいる。
	情報システム課	163 インターネットホームページの充実	青梅市について広く周知するため、利用者（閲覧者）にとってより、分かりやすく効果的な情報発信ができるようホームページ機能の充実に努めます。	オープンデータの公開を開始した。	△	次年度にホームページコンテンツ管理システムの更新を控えていたため、予算をかけた現行ホームページ機能の充実に至らなかった。
	市民税課	164 青梅税務署管内小学生による『税を考える週間』書道展	西多摩地区税務協議会主催で、青梅税務署管内の小学5・6年生を対象に、書道作品の募集を行います。厳正な審査を行い、入賞者を決定、入賞作品の展示会（イオンモール、合同庁舎）および表彰を行います。	青梅税務署管内小学5・6年生から4,030点の応募があり、青梅市からは16校946人から応募いただき、うち特選 4名、準特選 4名、金賞 12名、銀賞 7名、銅賞 11名、佳作 42名 計80名が入賞した。入賞者の作品については、下記会場にて展示を行った。 ・イオンモール日の出 イオンホール 会期 11月9日～11日 ・青梅合同庁舎（青梅都税支所） 会期 11月13日～16日	○	青梅税務署管内の応募者数は昨年を上回ったものの、青梅市の応募者数は応募した学校は2校増えたにもかかわらず、昨年来若干下回ったが、書道を通じて税に関する正しい知識の普及と意識の高揚を図り、租税教育を推進することがおこむねできた。
	防災課	165 土砂災害対策の充実	土砂災害ハザードマップを作成・配布し、危険区域の住民周知を行うとともに、土砂災害対応訓練を実施し、市民の防災意識の高揚と知識の習熟を図ります。	・市内の土砂災害警戒区域の2巡目基礎調査終了（平成30年度）後のハザードマップ更新に向けての検討を行った。 ・東京都の「地区単位の土砂災害ハザードマップ作成事業」に全面協力し、小曾木地区の3自治会でハザードマップを作成した。 ・今井市民センターほかにおいて、関係機関相互の協力体制の緊密化および防災計画の習熟化を図り、市民の防災意識を高めることを目的として、青梅市土砂災害対応訓練を実施した。 1 実施日時：6月24日 午前10時から正午まで 2 参加機関：青梅市、青梅消防署、青梅警察署、西多摩建設事務所、青梅市消防団、第11支会地区防災対策委員会ほか 3 参加人数：316名	○	・東京都のハザードマップ作成事業に参画し、市民の方とともにハザードマップを作成することで、様々な市民の声を聴くことができ、今後の土砂災害ハザードマップ更新に向けて有意義な検討を図ることができた。 ・土砂災害対応訓練を関係機関と緊密に連携し実施することで、今井地区を中心とした市民の防災意識の高揚と知識の習熟を図ることができた。
	市民センター	166 市民センターだよりの発行	市民センターで開催される事業や地域の様々な行事などの話題をお知らせします。	・（青梅C）「市民センターだより」は発行していないが、第1支会ニュースの発行や青梅市自治会連合会ホームページを通じ、支会の行事等の情報発信を行った。 ・（長淵C）「長淵市民センターだより」を計12回発行した。 ・（沢井C）自治会の行事を青梅市自治会連合会ホームページに掲載し、情報発信を行った。センターだよりを発行し、市民センター行事や支会行事情報の周知に努めた。 ・（小曾木C）市民センターからのお知らせを12回発行した。その他、行事ごとの回覧を発行した。 ・（成木C）各支会の行事を青梅市自治会連合会ホームページに掲載し、情報発信を行った。センターだよりを発行し、市民センター行事や支会行事情報の周知に努めた。 ・（東青梅C）支会や自治会の行事を青梅市自治会連合会ホームページに掲載し、情報発信を行った。センターだよりを発行し、市民センター行事や支会行事情報の周知に努めた。 ・（新町C）毎月1日付けで年12回（裏面は図書館だより）各回約400部発行、自治会回覧、市民センターで配布 ・（河辺C）毎月「河辺市民センターだより」を発行・配布し、市民センターや支会の行事等、地域の情報を発信した。また、自治会連合会ホームページにおいて同内容のPDF版を公表した。 ・（今井C）各支会の行事を青梅市自治会連合会ホームページに掲載し、情報発信を行った。センターだよりを発行し、市民センター行事や支会行事情報の周知に努めた。	○	HPによるお知らせとともに市民センターだよりを発行することにより、より幅広い市民への周知を図っている。地域への情報の提供、共有において役割を果たした。
	商工観光課	167 観光CD-R等の貸出し、観光テレフォンサービス	青梅市の観光について知っていただき、理解を深めていただくため、気軽に利用してもらえる情報を提供します。	観光テレフォンサービス利用状況 催し物案内、花と紅葉の情報、御岳渓谷・御岳山・吉野梅郷等案内 また、観光CD-R等の貸出しについては利用がなかった。	○	テレフォンサービスについては、旬な観光情報等案内できた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 学習情報提供の充実	社会教育課	168 生涯学習だよりの発行	市の各種教室、講座、講演会、イベントや市民グループ・団体および西多摩の関係施設の生涯学習情報をまとめて提供し、市民の学習活動を応援します。年4回発行(4月・7月・10月・1月)	生涯学習だよりの部数を各回1,500部、年4回発行した。また、教育委員会と市のホームページにも掲載した。	○	各種団体の行事・イベント等予定の掲載のほか、実施した事業などの掲載も行った。掲載内容については今後も検討していく。
	社会教育課	169 市民企画講座の募集	まだ、青梅市では開催されなかったような講座の企画を市民から募集し、市民センター等で開催します。	生涯学習推進市民会議企画講座を開催した。計10講座 延べ参加人数 475人	○	市民会議委員の協力により、講座を実施した。主に成人向けの生涯学習講座を中心に実施し成人教育の充実が図られた。
	社会教育課	170 社会教育事業の学校への周知	市民センター等で実施する生涯学習事業を積極的に学校へ周知をします。	講座開催ごとに、小・中学校などにポスター・チラシを送付したり、生涯学習だよりを配布して周知した。	○	講座によってチラシの配布方法を変更したり、学校からの申込みを増やすために、申込みボックスを設置するなど工夫を図った。
	社会教育課(図書館)	171 図書館報の発行	図書館の事業や新着図書を紹介する図書館報を発行します。	・図書館報 年6回発行 各回約180部作成 中央図書館・各分館で配布、ホームページへの掲載	○	2か月に1回の発行ペースで年6回発行し、図書館事業を紹介することができた。今後も内容の充実を図ることが課題である。
	社会教育課(図書館)	172 ブックリストの配布	幼児、小学校(低・中・高学年別)および中・高等学校の児童・生徒に推薦図書リストを配布します。	・幼児向けブックリストを市内幼稚園、幼稚園、保育園を中心に1,000部配布した。 ・小学校(低・中・高学年)向けブックリストを市内の小中学校を中心に3,600部配布した。 ・中高生向けブックリストを中学校に1,200部配布した。	○	保育園や小中学校など市内全域の幼児・児童・生徒にブックリストを配布することができた。
	社会教育課(図書館)	173 分館図書館だよりの発行	新着図書を中心に、特集なども組んだりしながら、市民への推薦図書を楽しく紹介する、図書館だよりを発行します。	・分館図書館だより 毎月発行(年12回)・各回113部作成 中央図書館・各分館で配布、ホームページへの掲載	○	毎月発行し、発行時期に応じた特集や新着図書を紹介することができた。今後も内容の充実を図ることが課題である。
(2) 学習相談の充実	社会教育課	174 学習相談	青梅市に登録された講師・指導者等の人材情報や生涯学習施設、講座・催し物、学習グループ等の情報にもとづいて学習相談を受け、市民の学習意欲が活動につながる相談体制を構築します。	窓口で随時情報提供を行うほか、ホームページによる周知を図った。	○	窓口や電話でのサークル紹介や講師紹介を行った。

5 生涯学習推進体制の確立

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	平成30年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 推進体制づくり	職員課	175 職員対象啓発事業	「青梅市生涯学習まちづくり出前講座」等の生涯学習の推進を図るため、担当業務に精通する上で必要な研修の受講を支援し、職員の生涯学習に関する意識を啓発します。	業務に必要な知識等の修得を図るため、東京都町村職員研修所の実務研修に29名、東京都研修所等の公的機関が主催する研修に9名、その他各種研修機関が主催する研修に53名、先進自治体などの視察に13名の職員を派遣した。また、自己啓発学習を促す通信教育等を18名が受講した。	○	平成30年度研修実施計画にもとづき、職層や経験年数に応じた研修に、効果的に職員を派遣することができたため。
	社会教育課	176 生涯学習推進本部	市長を本部長とする生涯学習推進本部(行政組織)で、生涯学習推進の目標・基本方針、推進計画を策定し、生涯学習推進施策を全庁的に進めます。	・生涯学習推進本部会議開催数 3回 第1回開催日 4月24日 第2回開催日 11月6日 第3回開催日 1月29日 内容 第六次青梅市生涯学習推進計画の策定、出前講座の実施状況、新緑祭の開催について等	○	生涯学習本部会議を3回実施し、第六次青梅市生涯学習推進計画を策定した。また、各課で行う出前講座の実施状況やその他青梅市の生涯学習に関する報告等を行い、青梅市の生涯学習全体の状況について議論した。
	社会教育課	177 生涯学習推進市民会議	学識経験者や生涯学習関係団体の代表者等からなる市民組織。市民の声を聴きながら、市と市民の協働で生涯学習推進施策を進めます。また、生涯学習推進市民会議企画講座を実施します。	・生涯学習推進市民会議開催数 4回 ・生涯学習推進市民会議企画講座 10講座 延べ参加人数 475人	○	市民会議を実施し、第六次青梅市生涯学習推進計画の策定にあたり、検討を行った。また、新緑祭の運営方法等や市民会議企画講座の実施の促進等について話し合った。

令和元年度

第五次青梅市生涯学習推進計画進捗状況報告書

(平成30年度分事業)

発行 青梅市生涯学習推進本部

編集 青梅市生涯学習推進本部事務局

青梅市教育委員会教育部社会教育課

〒 198-8701 青梅市東青梅 1-11-1

